6月號

婦人運動

第6卷 第5號

婦人消費組合協會號



職業婦人社發行

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可 每月一回一日發行 昭和三年六月廿日印刷納本 同三年六月一日發行 第六卷第五號


夏衣の御用は
高島屋へ
夏の流行衣裳
丸帯、單帯
明石、うす御召
紗、絽、縮み類
裾模様、訪問服
新柄浴衣地等
豐富に揃ひました。
高島屋呉服店
東京・京橋

婦人運動

六月號　第六巻第五號

目次

婦人運動

六月號





消費經濟と政治

高橋龜吉

我々は毎日物を買つて消費する生活をしてゐる。この、我々の消費生活は、政治とどういふ關係にあるだろうか。又、消費者としての我々の立場から政治をみるとき、今日の政治はどう行はれてゐるだろうか？　かういふ問題について考へを進めてみることに依つて初めて、我々は何故に政治運動に携はらなければならないのか、といふ事に就いて及び政治運動に携はるについては――特に消費者としてのわれ／＼はどういふ立場からすべきであるかに就いて、はつきりした答へを摑むことが出來るのである。

從來、政治に就いての一般民衆の考へ方が誤つてゐた。即ち幕府時代には將軍とか、殿樣とか明治の初め頃には官僚とか云つた風に、當時政治の實權を握つてゐたほんの少數の支配者に對して人民は、事ある毎にこれに縋つて解決して貰はうとしてゐた、その考へを今日もなほ政治に對して持つてゐて、依賴心ばかりが強くて自分らの力でどう改

めてゆかうともしない傾きが尠くない。

然し今日はすでに普通選擧の時代である。政治の意味も當然に、我々がお互ひに話し合ひ考へ合つた上で決定した事を實行に移すといふ、即ち今日の我々が政治に依つて解決しやうといふ事は、我々がお互ひに申合せて、協力してやつてゆかうといふ事に外ならないし、又さうなければならないのである。今日我々の消費經濟生活が政治と切り離すことが出來ぬ關係にあるといふ事は、とりも直さず我々は政治に依つて消費經濟方面を改善するために努めなければならないといふことを指すのであつて、婦人參政權の意義も又、これに外ならない。

扨、われ〳〵の消費經濟生活を顧みるのに、大體次のやうな過程を經て今日に來たと思ふ。

一、自給自足の經濟
二、交換經濟（自由競爭時代）
三、同上獨占經濟
（イ）自然的獨占
（ロ）資本家的獨占
四、經濟の政治化
（イ）資本家擁護の物價引上
（ロ）各種の補助及び保護

一、曾つて我々の食物も我々の手でこれを作り、着る物も、糸をとる事から機に織るまで自分で行つて衣食住一切合切を自給自足で生活してゐた時代がある。かういふ時代の消費經濟生活は殆んど政治と交渉がなかつたといつていゝ。家庭婦人がいつまでも政治に就いて密接な關係にある事をみのがし勝ちなのは、かういふ時代があつたからだと

も云ふべきであろう。

二、ところが交換經濟の時代に入つて、自分が直接に自分の必要に應ずる仕事をするのでなく、何らかの外の仕事をして、それから得るところの收入で自分の必要品を買求める時代になると未だ直接に政治との關係を我々は持たない時代ではあるが、所謂、自由競爭に依つていゝ物を安く賣れば客が殖え、惡い品や高い品を賣れば店が衰へてしまふといふ結果でひとりでに制裁がそこに行はれ我々はいゝ品を安く買ふことが出來たのである。

たゞこの時代にも、或ひは奸商があつて僞造贋造をしたり、衞生上から見て不良のものがあつたりしたとき、政府は政治的な取締りを以て干渉をした。

三、我々の消費生活が政治と非常に密接な關係をもつやうになつて來たのは、第三の獨占的經濟に入り、これが發展しかけて來てからである。

獨占的經濟に二つある。即ち、

自然的獨占（瓦斯、電氣、水道、土地、住宅等）

資本家的獨占　カルテル（聯合）、トラスト（合同）

で、我々が自分で井戸を掘つて水を汲み薪を買つて使ふといふやうな自給自足乃至交換の生活をしてゐた時はとにかく、今日のやうに瓦斯や水道や電氣、汽車等に賴るやうになつては、如何なる場合にも單獨に行動するわけにゆかず、他との共同行動をとらなくてはいけない。即ち自分獨りだけ電燈を六時から灯けたいと云つたところで不可能であると同樣に、電車賃の値上げが氣に喰はぬ、家賃が高すぎると云つたところで自分獨りの力ではどうする事も出來ないが同じ樣な立場に置かれてゐるものが多數共同して政治に訴へてこれを改めてゆかうとすればそれは決して不可能ではないのである、この外に資本家的獨占、これは資本家が團結し、金子の力に依つていろ〳〵の獨占を行ふので

あつて或ひは石炭商が聯合して値段の低下を防ぐために一ケ年に幾百萬噸以上は掘らないといふ事を申合はせたり、安い撫順炭の輸入量を幾十萬噸以下に決めたりすること（カルテル）及び大資本家が同じやうな性質の事業をだんだんに自分一手に買ひ占め獨占して思ふ儘の値段で賣りつける（トラスト）などして、結局資本家の儲けは思ひのまゝになる代りに民衆は高い物を買はされなければならぬ。元來資本家の活動の刺戟は、如何にしたら最大の利潤を收められるかといふ事に外ならないのであつて、資本主義時代の初期に於てこそ、自由競爭に依つて良い品を安く賣る店が繁昌し、惡い品高い品を賣る店は結局衰へて資本家の利害と社會一般の利害はよく一致するとせられたのであるが、カルテル、トラストなど金子さへあれば非常に手輕に儲ける事が出來るところの新しい方法に心附いた資本家は、いつまでも從來のやうなまだるい儲け方をくりかへしてゐる筈はなく、益々獨占的なやり方に依つて、一擾、非常に大きた利益を掴むやうになつたのである。

これは消費者としての民衆の利益を極度にふみつけにするもので、その不當不利を民衆が怒つて個々別々に對抗したところで何にもならず、團結して、不買同盟なり、消費組合を以て自衞する、或ひは更に積極的に我々自身の政治的勢力を固めてこれに對抗してゆくより外ない。即ち、消費者として有力な政治運動を起す必要の迫つて來た時代である。

四、經濟の政治化時代とは、丁度わが邦の今日の時代で、我々の消費經濟生活は政治の中に沒入してしまつたと云つていゝ。即ち大資本家がこれまで經濟的活動に依つて儲けてゐたものが政治上の活動に依つて儲け、その儲けた金子を以て又政治家を買收し政治を動かして益々儲けるやり方、これである。今日優秀の頭腦もたず學識もなく、手腕もない人物がたゞ金子あるがために代議士になり、大臣になることが出來て國政を支配する事さへ出來てゐるのはこの間の消息を語るものに外ならない。（五四頁につゞく）

英蘭婦人産業組合協會の活動

岡田敏子

私たちがこんど、婦人消費組合協會の趣旨に共鳴して會員のみなさんと共に、婦人の立場から——特に家庭婦人の立場から何らかの社會的活動に入つてゆかうとしてゐるときにあたつて、私たちと殆んど同じやうな氣持で、そして私たちがあゝいふ風に働かう、かう動かさう、といろ〳〵相談をしてゐることどもとかなり似通つた活動をすでに盛んに行つてゐるところの先進國の婦人があるといふ事を私はある先輩から敎へて頂いた。

海山幾萬里をへだてゝゐても、結局女として考へつくことはやつぱり同じであるらしい。——だつて、生活が同じですもの、ね——私は今、同志を見出した喜びを、といふよりも力强い私たちの先輩を得た喜びをみなさんに告げないではゐられない。嬉しさの餘り私の幼稚な筆でこの先輩の仕事を簡單ながら御紹介することにした。次の英蘭婦人産業組合協會の活動がそれであります。

英蘭婦人産業組合協會の目的は、婦人を教育して模範的な消費者となし又一方に主婦であり家庭の會計檢査官であるところのその「買ひ手」としての地位の重要さを自覺させ、母性を尊重する地位を築き上げる事などに依つて、全ての家庭婦人が市民として立派にその責任を果たすことが出來るやうにみんなで協力する一つの團體である。この協會の標語は、「希望は誠心誠意より湧く」といふ。

この精神を以てつねに産業組合の事業に働いたり又公共の事業にあづかつたりしてゐるのである。そしてこの協會が綱領として掲げてゐる所は次のやうである。

一、産業組合、及び公的生活に於いて、全ての點で婦人が男子に伍して劣ることがないやうにそのために必要な確心と知識とを會員に授ける。

二、無産婦人が、産業組合及びその他のいろいろな問題に

ついてその要求や意見を發表したり、

三、その意見や要求について實行をするための機關ともなり、

四、婦人に、組合の會合に出席するやうすゝめ、又進んで組合の仕事に協力するまでに奬勵する。

要するに英蘭婦人産業組合協會の目的は、あらゆる手段方法をつくして産業組合主義を發達させ、廣く宣傳し婦人が組合の仕事の各方面に進んで携つてゆくやうに働きかけ、主婦の意見と要求を以てつねに主婦自身の生活を、その家庭を、都市を國家を少しでも改良し、進歩させてゆくことが出來るやうに協力するのである。

元來、産業組合の運動は主として主婦が行はねばならぬ運動である。なぜならば、この運動は主婦がよく購買するかせぬかに依つて盛んにもなり衰へもする性質のものであるから從つて主婦は、産業組合主義を通じて初めて、市民として團結することが出來るのだとも云へる。この目的を遂行するためにこの協會は、産業組合主義の婦人に依つて作られ、そして、さういふ婦人たちに依つて管理せられてゐるのである。

一　協會の活動

英蘭婦人産業組合協會の特徴は、他の團體に所屬しないで全く獨立の立場から自由に、内部の事務一切を自治的に管理してゐる點である。然し、かうして獨立の地歩を有つといふことは財政上苦しいこともすくなくないのであるが、そこは幸ひに協會の目的とするところを會員がよく理解して資金調達のために進んで奔走するので、追々と發展しつゝあるわけである。殊に注意したいのは、協會が絶えず教育と宣傳を兼ねて行つて理論方面の研究と共に實際方面の活動を併せ行つてゐる點で、そのために協會が非常に堅實な成功を收めることが出來てゐる。

英國の組合運動に理解をもつてゐる婦人が組合の運動に參加するためには、ぜひこの婦人産業組合協會のやうな婦人團體の援助をうけて統一した指導方針の下に活動するのが一番いゝ方法であるといふので、産業組合と關係のある婦人を一人殘らず協會に加盟させやうとして努力してゐる。實際、この協會は組合運動を目的として働いてゐるいろんな團體と協力して合同委員會を組織して主義や主張の發表を行つてゐる

と同時に一般の産業組合運動とも歩調を合せてやつてゐる。組合の公けの機關紙である「産業組合新報」の購買者を募ること、産業組合をして豫備費、教育費をもつと多額に支出させるやうに主張すること、産業組合の生産を盛んにして中央會と卸賣聯合會とから申出てゐるいろ／＼な促進運動を婦人の立場から助ける一方、産業組合運動の内部組織に關して、この協會として獨特の政策を、――時には卸賣聯合會や中央會の主張に反對してまで――採つてゐる。

例へば一九〇八年から一九一二年の間に共同十字軍を組織して全て産業組合關係の仕事に從事してゐる使用人に對して全國的に最低賃銀率を採用するやうに運動してとう／＼その目的を達した。（イギリスで最低賃銀率制定の火蓋を切つたのは實にこの運動の成功に依る）又、一九一三年乃至一四年には、男子と女子とが「同じ仕事に對して同じ賃銀」を與へられなければならないといふ事と、産業組合使用人の間にも强制的に勞働組合を組織すべしといふ事を主張し、更に地方賃銀委員會を、單にこれまでの樣に經營委員會と組合員とからばかりでなく、組合使用人合同組合やその他の使用人組合からも代表者を出して設置せよといふ事について盛んに運動をした。

殊に、産業組合員が特に産業組合員の立場から國家及び自治體の政治に參與することの可否に就いて永い間論爭が行はれてゐたのであつたが、それに對してこの婦人産業組合協會は保守分子にまつ正面から反對して、消費者として同時に生産者として又一市民として團結して、鬪ふべきであるといふ强硬な立場を以て、そのために産業組合運動と勞働黨と、そして一般の勞働者の團體とがみんな提携して、國會並びに自治體議員の選擧に際しても共同の候補者を後援しやう、とあくまで高張してゐるのを見のがしてはならぬ。

なほ、この協會の活動は、たゞに産業組合運動の内部で婦人として出來るだけの改造助成に力をつくしてゐるばかりではない。殊に最近の十年間は、家婦として、母として、また一市民としての勞働婦人の要求や希望を勞働婦人に代つて、或ひはこれを助けて卒先して社會に主張し、又そのための活動を盛んに起してつねに勞働婦人の團體のために有力な補助團體となつて來た。そしてその活動が、決して抽象的な言辭をいたづらに弄して輕擧するのでなくあくまで實際的に、直ちに實際生活の上に決定的な效果があるやうな諸提案を熱心

に起して働いてゐるので、僅かに五萬人の會員をもつ婦人產業組合としては――而も五千磅以下の年收しか持たない――實質以上の遙かに偉大な影響を各方面に起してゐる。これも協會員がそれらの大事な社會問題について非常な熱心を以て撓まざる努力をつゞけてゐるからに外ならないのである。

一九一六年には「產業組合團體常設共同委員會」が設立された結果、この婦人協會は、國家としてのいろんな委員會や各種法定機關にも充分にその代表者を送つて婦人側の主張を發表する事が出來るやうになつた。そして、これらの雜多な公事業に從事してゐる會員達のために立派な報導機關として働いてゐるばかりでなく、各方面への通信社代りに、婦人界の正確な記事や時宜に適した書信を、勞働新聞はいふまでもなく、ブルジョア新聞雜誌にも絕えず發送してゐる。更に、協會として、婦人參政權のために有效にして必要な運動、保健省の創設、女中を國營の健康保險制度の恩典に浴させるやうにすること、姙產婦手當を與へること、姙產婦の預り所を設けること、既婚勞働婦人の地位の改善、住宅問題、母性保護、離婚法改正、食糧問題、小學校兒童問題、一般の健康診斷等にも著しい貢獻をしてゐる。

かういふ重要な仕事はつねに、各支部で研究されて、實行方法をそれ〳〵に決定した上で活動に入るのであるが、一九二一年英國全土に亘つて、組合の出資金を增す運動が行はれたときの如きは、卸賣聯合會、中央會、及び地方の組合と一致して協力したし、政治運動についても、產業組合黨や產業組合男子協會と共に合同委員會を組織して、勞働黨と提携して產業組合の政治的立場を建設するために努力してゐる。

二　協會の組織

この協會の組織全體の根底をなすものは、どこまでも「婦人の自治主義」である。一八八三年に生れて以來非常な勢ひで發展してゆき一九〇四年には、

三六五支部

出來、それが分れて三十地方部、五區部となつてゐた。

會員は、個人としては支部基金に、通常年額二志乃至四志を納め、まとまつては、區部と中央基金に、年額一人あたり九片の割合で納めてゐる。

中央委員會

中央委員會は協會の行政機關であつて、區部内の支部が、

選出する各區部からの九人の委員で成立してゐる。その役目とする所は、

(イ) 協會の全ての機關を最も有效に運用させてゆくこと

(ロ) 年一回行ふところの協會の會議の手配りをして、その決議を實行させること。

(ハ) 産業組合擴張運動、國家をして母性を保護させるやうに要求する運動等、協會として特別運動を起すこと

(ニ) 協會で行ふ講習會を發達させること

(ホ) 支部に對して、その仕事に對する指導又は忠告をなして協會全體を通じての一致協力進歩的行動を助長するためにつとめること

(ヘ) 重要問題を取扱ふ回章を出版しパンフレットを出し協會の年報を發行する。

中央委員はいろ〳〵な各地の集會に出席して講演が出來なければならぬ。

支　部

各支部は、常に中央委員會から暗示して來る問題について研究することを怠つてはならない。大抵の場合支部の自治で事を運んでいゝのであるが、次の二項だけは支部として必ず守らねばならぬものである。

(イ) 會員は必ず産業組合主義の婦人であること

(ロ) 會員一人毎に、九片(五十二錢位)の拂込金を本部に納めること

支部の空氣は多少の相異があるのはやむを得ぬが全體として極めて親密な氣分が溢れてゐる。

支部は一週又は二週に一回づゝ集會を開くが、午後か夜分の方が多數の家庭婦人にとつて都合よいやうである。普通二時間位つゞいて、協會の業務の整理から初まり、中央委員會の指導方針にもとづいて支部の活動方針を定め、區部會地方部會から受取つた回章とか文書について論議する。又、次の評議會に送るべき代表者を任命したりその報告をきいたりする。時には澤山の會合が續けさまに、一つの問題についての短時間の講演(それは通俗的のものが多くて産業組合運動の歴史、原理、市民の權利義務、産業史、家庭養育等についての)に當てられることもあるが、最近では、毎年特種の問題を撰んで論議することもあるやうになつた、例へば、國民の福利問題を撰んだり、勞働者の家庭生活や、婦人及び子供に關する勞働立法、搾取制度、勞働組合、婦人參政權問題等につい

て討論をし、又實際の活動にも入つて、社會組織の改良運動をも起すやうになつて來た。

例へば、貧乏人の家庭を訪問して、貧乏人の狀態と慾望を知るために方面委員と意見交換をし、一九二〇年には、サンダーランド（貧民の最も多い所）のコロネーションにセットルメントを建設した。

區部會

同一地方にある支部が合して區部會を形成するもので、現在では四十五區部會がある。區部會の基金は會員一人每に二片（約十二錢）を納めてゐるが必要に應じて本部の基金から相當に補助をうける。

區部會は普通一年に二度乃至四度位會合して、接近してゐる支部の會員同志がその活動方法を比較研究したり、その地方々々に起つてゐる特別利害問題について論議し合つたり、協會の仕事をよりよく進めてゆくために相互協力の機會を作つたり、努める。

區部會の普通一般の仕事は次のやうである。

（イ）會議の手配りをすること
（ロ）新しい支部を作ること
（ハ）既に出來てゐる支部を訪問して弱いところを助ける
（ニ）各支部の招きに應じて協會としての特別問題について講演する講師を供給する。この場合費用は支部負擔
（ホ）諸種の講習會の手配りをすること
（ヘ）役員講習會の手配りをすること

年議會

一年一回の協會年議會議はこの會の統治機關である。大抵每年六月、各地の都市に順次開催されるのであるが出席代議員は、本部基金の拂込金を納めてゐる正會員二十五人に就いて一人づゝの割で各支部が出し、外に區部會と地方部會とからも各一人の代議員を送つてゐる。

年會議にはいろ〳〵の問題が提出されるが、主として產業組合運動や婦人協會一般の問題について種々の決議を採擇して一年間の活動方針をきめる。多くの代表者や役員が演說をする。中央委員會はこの會議の決議を實行する助けとなる色んな方策を支部に暗示する。各支部は中央委員會やその役員を通じて相互の通信を保つてゆく。

年會議の仕事は次のやうである。

一、協會の年報を審議すること、

二、協會の一般的規則を作成すること

三、中央委員會と地方部參事會とは、年會議の決議を守る義務がある。支部にはさういふ義務がないが然しこの決議を指針とすべきであるし、決議に贊成した代議員の居る支部には德義上これを遂行する義務がある。

一九二二年にはポーツマスに開かれ支部代表者七〇〇名、一九二三年にはカージツフに開かれ代表者七六〇名。一九二五年ケンブリッチに開かれた時は殆んど一、〇〇〇名の支部代表者が集つた外スコツトランド、アイルランド濠州南アフリカ等の姉妹協會の代表者や、産業婦人組織常置委員會、中央會、卸賣聯合會、勞働黨、生産組合聯合會出版組合、男子協會の代表者、ドイツ、チエコスロバキアの代表者等が出席した。

そして協議の重要問題は、當面の失業對策を論じ決議を政府に送つてゐる。炭坑の改善問題、ロシアとの直接貿易學童年齡を引上げて青年教育の振興をはかる問題に就いても論ぜられた。

全てこれらの會議に集る支部代表者は大部分家庭の主婦であつて、斯うして多數の出席者が數日の間家庭をあとにして組合のために會議に列なるのをみても、如何に英國の婦人が産業組合の精神を理解し、組合運動を重要なものに考へてゐるかゞ解るのである。

本部の基金

協會の本部基金は中央委員會の管理の下にあるが重なる財源は、

(イ) 年々各支部から會員一名につき九片づゝ據金するもの
(ロ) 産業組合中央會より年々補助される五百磅
(ハ) 卸賣聯合會より年々補助される四百磅
(ニ) パンフレット、業務用書籍、會員カード、徽章等の賣上利益金

一九一九年の協會の收入は一七四九磅で、その內一六七六磅の支出、支出の主なるものは、

(イ) 本部費用(家賃、燃料、燃火、電話等)
(ロ) 書記給料
(ハ) 本部委員會諸集金費用
(ニ) 代表者及び講演者の費用
(ホ) 小冊子、業務用書籍徽章の作製費
(ヘ) 諸會議、諸講演會に對する補助金

(終)

婦人消費組合協會の生れるまで

春子

いよ／＼婦人消費組合協會が生れるといふ日、即ち發會式の當日に、東京朝日新聞の婦人室に、次のやうな記事がのせられました。

×

婦人室

發會式を擧るに至つた
婦人消費組合協會

あちこちの家庭婦人がいひ寄り話し合うて、もつとも家庭婦人らしい立場から、もつとも家庭婦人向きな會を作つて社會的に働いてゆかうといふ事になりました。婦人消費組合協會がそれです。

主婦としてお母さんとして、あるひはをばさんお姉さんとして、隨分立派にその母性的な本領を發揮して働いてゐられる優れた婦人が世の中には澤山あるものです。さういふ優れた婦人たちの力を一軒の家庭だけに閉ぢこめておかずに社會的にもよく生かすために、成べく廣く多くのいゝ（いはゆる）女の人を誘ひだしてこの仕事に織こんでゆかなくつちやならぬ、かう私たちは思うてゐます。

いよ／＼この十九日午後二時からこの發會式ですが、何分にも外出し難い家庭婦人のことですから、お互に社會的に踏みだす足はほんの一歩半歩でいゝ。それが澤山の婦人の意志の總和となれば可なり大きな力となつて世を動かしてもゆけると確信いたします。

ぜひ澤山の婦人に參加してほしい發會式は、牛込區飯田橋際の產業組合中央會であります。（奥むめお）

婦人消費組合協會規約草案

第一章　名稱ト構成

本會ハ婦人消費組合協會トイヒ、本會ノ目的ニ贊成シ協力スル婦人ヲ以テ組織スル。

事務所ハ當分ノ內東京市牛込區市ケ谷本村町四ニオク。

第二章　目的ト組織

本會ノ目的ハオヨソ次ノヤウデアル。

一、婦人ノ間ニ消費組合運動ノ精神ヲヒロメ、生活ノ充實ヲハカルコト。

二、家庭ニ社會ニ、主婦及ビ母トシテノ要求ヲ實現スルタメニ協力シ、更ニ一般家庭婦人ノ爲ニ相互扶助ノ機關トナル事。

本會ノ目的ヲ達成スルタメニ次ノ四部門ヲオイテ分擔シテ働ク。

一、調査研究部
二、教育宣傳部
三、事業部
四、相談部

第三章　機　關

本會ハ次ノ三ツノ機關ニ依ツテ仕事ヲ進メテユク。

一、一般委員會



發會式の寫眞（子をつれたお母さんも沢山つめかけた。立つて挨拶してゐるのは奥むめお氏）

この會の目ざす所は、この一文につきてゐると思ひます。將來の活動も、常にかういふ立場から進められてゆくに外なりません。

ずつと曇り勝ちの天候が珍しくその日の朝からがらりと晴れて、あだかも、家の中にばかりくすぶつてゐた家庭婦人たちの今日の門出を天もことほぎ祝つて呉れるかのやうで嬉しうございました。

「お天氣ばんざい！」

「家庭婦人の解放される日もいよ〳〵近づいたといふ前兆ね」

など〻、當日の會場係は朝からなかなかの元氣でした。

新聞でみて來た、といふ婦人もあり人傳てに聞いて御案内をうけない者だけれ

二、常任委員會

三、總　　會

一、一般委員會

一般委員會ハ一般委員ヲ以テ構成シ、次期總會ニ至ルマデノ決議機關トシ、必要ニ應ジテ常任委員會ガコレヲ召集スル。

一般委員會ハ一般委員ノ二分ノ一以上ノ出席ヲ以テ成立スル。

一般委員ハ大會ノ席上デ選出シ、ソノ任期ヲ一ケ年トスル。

一般委員ニシテ正當ノ理由ナク引キツヾキ三回以上委員會ヲ缺席スルトキハ失格スルモノトシ、其ノ缺員ハ一般委員會デ補選スル。

二、常任委員會

常任委員會ハ常任委員長、常任委員、及ビ會計監督ヲ以テ構成スル執行機關ニシテ、會ヲ代表シ、總會並ビニ一般委員會ニ對シ責任ヲ負フモノトス。

常任委員ハ一般委員ノ中デ特ニ常務萬端ニ携ハルコトガ出來ルモノ若干名ヲ選ンデコレヲ委囑スル。

三、總　　會

總會ハ會ノ最高決議機關ニシテ總會代議員、一般委員及ビ、本部役員ヲ以テ構

ど共鳴して來たのですが、よいでせうか、といふ婦人もあり、會衆八十幾人の内約半分は全く見知らぬお友だちでありました。この協會を通してこれから、どんどん家庭婦人のお友だちを殖やしてゆきたいものです。雪だるまさんがコロ〳〵轉ろがつてゐる内にだん大きく重くなる樣に、婦人消費組合協會が活動を初めると同時に一日〳〵と、ころ〳〵ころがつて各地の共鳴者や同志をこの中へ織り込んで行きたいものです。一番大きなだるまさんに成つて、全ての家庭婦人を網羅してその勢ひでドシンと附きあたつて御覧なさい。どんな難關だつて立ち所に突破してゆけませう。協力より大きい力はありません。家庭婦人としての共同の利益のために、又、家庭婦人の地位向上のために、みなさんと協力しませう！

なほ、當日の案内狀をおめにかけます。(水色用紙)

婦人消費組合協會のお誘ひ

拾錢を貯へることを知つても一錢をよく生かして使ふ心がけがなかつたならば、結局貯へられた拾錢も死藏するにすぎぬでありませう。

今、消費者としての主婦の立場から私たちの日常を顧みますのに、時間の上にも金子の上にも隨分むだを重ねてゐる事に驚かずにゐられません。かういふ問題について話し合ひ考へ合つて、とも〴〵に家庭生活の改善をはかりたいそして進んでは主婦であり母である私たちが日ごろ願つてゐますことどもを主婦同盟、母の同盟の力で世に實現しながら家庭生活の延長であるところの社會の改造にまで御一緒に携つてゆきたいと思ひます。

婦人消費組合協會はかういふ動機から目下準備中なのでありますが、あなたにもぜひ〳〵加はつて頂きたうございます。來る拾九日の發會式は、準備會をかねて皆樣と御相談をしたいと思ひますので萬障くり合せてどうぞお出席下さいませ。

(發企人)

井上美代子　西川きく子　奥　むめお
大坪　春子　加藤　和子　村山　文子
上田きよ子　上田　光野　丸岡　秀子

成スル。總會ハ每年一回五月ニ行フコト

但、常任委員ハ會員三分ノ一以上ノ要求ガアツタ場合ハ、臨時總會ヲ招集スルコトガ出來ル。

總會ノ代議員ハ支部ヨリ選出スルモノトシ其ノ選出比率ハ別表ノ定メルトコロニ依ル。總會ハ代議員定數二分ノ一以上出席スルノデナケレバ議事ヲ決メルコトガ出來ナイ。

總會ノ議事ハ出席代議員ノ過半數ヲ以テ決メル、可否同數ノ場合ハ議長ガコレヲ決メル。

第四章　本部　役員

本部ニハ左ノ役員ヲオク。

一、常任委員長　一名
二、常任委員　若干名
三、會計監督　一名
四、會　計　一名
五、部　長　若干名

本部役員ハ次ヘ如キ方法ニテ選出スル。

一、常任委員長、常任委員、會計監督ハ、一般委員會ガコレヲ互選スル。
二、部長及ビ會計ハ、一般委員會ガコレヲ任命スル。

會計ハ會ノ會計事務ヲ處理スル。

松浦みつ子　前田つぎ子　赤松常子
荒木俊子　阪本眞琴　宮館きぬい
平田のぶ子　森岡その子

規約は目下印刷中です。出來次第いつでもお送りします、どうぞあなたのまわりのみなさんを會員に勸誘して下さい。

役員として選ばれた者は次の通り（但し、初めて言葉を交はした人の中にも、隨分しつかりした家庭婦人が澤山おいでゝしたのでみす／＼この協會の責任者になつて頂けずにお歸しするのがほんとに惜しいと思はれましたけれど、然し、やつぱりもう少し互ひに知り合つた上で、語し合ひの上でおひ／＼とさういふお方にももつと責任を分擔して御一緒にやつて頂くことにしやうと、當分の役員をこれまでに知り合つた者だけに限つてきめておきました）

・・・常務委員・・・

西川きく子　大坪春子
奥むめお　加藤和子

・・・一般委員・・・

上田きよ子
井田須賀子　徳惠道世
村山文子　上田光野
松岡嘉子　丸岡秀子
前田つぎ子　江口孝子
赤松つね子　神こと子
平田のぶ子　廣瀨みすえ
森園その子

・・・委員長・・・

奥むめお

協議のとき、議論は可なり盛んに出て面白い會でした。例へば、

家庭婦人を集めてゆかうとする會としては、名稱が六ケしすぎる。みなさんにもすぐ解るやうな名にせよ知識のある中流どころの奥さんだけ會のならこれでもいゝかもしれないが、私たちは、かういふ會はもつとおかみさんらしい主婦の會にして、どん／＼おかみさんにも入つて來て貰ひ、又おかみさん向きな仕事をも進めてゆかなくては駄目だと思ふ。おかみさんにもすぐ解るやうな例へば主婦の會とか家庭婦人協會とかいふ名前に改め

會計監督ハ會ノ會計事務ヲ監督スル。
各部長ハソレ／＼ノ部門ヲ統轄スル。
役員ノ任期ハ一ケ年トシ再選ヲ妨ゲズ。

第五章　支部及ビ班

支部ハ會員三十名以上アルトコロニ組織スル。
支部ニハ左ノ機關ヲオク。
一、總會　二、幹事會
支部ハ必要ニ應ジテ班ヲオクコトガ出來ル。
支部規約ハ別ニ定メタル支部細則ニ依ルコトヲ要スル。班ニハ主任一名、幹事若干名ヲ置ク。
施細則ハ別ニコレヲオク。

第六章　會計

本會ノ經費ハ會員ノ會費、事業部ノ收入、及ビ一般ノ寄附ヲ以テコレニアテル。
會費ハ一口一ケ年五十錢トシ、二期ニ分納スルコトガ出來ル。但、事情ノユルス者ハ一人數口ヲ負擔シテ本會ヲ經濟的ニ援助スルコト。
納入シタル會費ハ一切コレヲ返還シナイ。
會計ノ決算ハ總會ノ承認ヲ得ナケレバナラヌ。

第七章　入會、退會及ビ除名

本會ニ入會ヲ希望スル者ハ會費ヲ添エテ申

てほしいと一方から意見が出たのに對して、
××主婦の會、家庭婦人の會などいふ名こそ、從來着物のキョウソウに浮身をやつしてゐたいはゆる婦人會が聯想されて反つて、健實な婦人は入つて來ぬだらうと思ふ。消費組合といふ字がすでに立派な理想を示す言葉であつて、單なる婦人會とはちがふ、消費者としての婦人が自覺し協力して、社會の改造にも携つてゆかうとしてゐるこの會の目的がよく解るでないか。改名には絕對反對。
いふ强硬論者があり又横から次のやうに反駁して來る人もあつて結局、婦人消費組合協會に一決しました。
×××一體貴女は、どこまでが奥さんでどこから先きがおかみさんだとお考へなのでせうか。さういふ差別感を以てかういふ會をやつてゆかうとする考へには贊成できません。消費者として、全ての家庭婦人がこの會の傘下に集つて協力しやうでありませんか」と。

活動寫眞もいゝものでした。食糧不足のわが國をよく、畫に現して、イギリスでは、一人あたりの食糧は、一人でやつと背負つてゆける程多く、アメリカは自動車に積んで持ち去る程に多く、日本のそれはイギリスの百分の一であるあまりの少なきに呆然、そして摑み合ひでやつと一人分を取るといふ有樣。ニヨコ〳〵と生れる子供の勢ひの凄しさ（毎年約一百萬）産兒調節の必要をいま更に痛感されました。酒に費やす十二億六千萬圓といふのに驚いて、あれよ〳〵と家屋や田や畑や――そして義理人情も何のその富も名譽も人の命までもが滔々として流れてゆく圖に見とれてゐると、今度は炎々と燃えさかる丸の內一帶、火事か？ とみるとさうでない、國民が一ケ年に吸ふ煙草の煙代が三億圓だといふのであります。
その他、日本中の家庭が、日に僅か三粒づゝの米粒を無駄に流しても全體で約百八十石、一ケ年には六萬五千石（二百九十二萬五千圓）生かして利用すれば幾

込ムコト。
本會ヲ退會セントスル者ハ常任委員會へ退會屆ヲ出スコト。
本會ノ趣旨目的ニ反スルモノハ一般ニ委員會ノ決議ニテ除名スルコトガアル。但、コノ場合ハ一般委員ノ三分ノ二以上ノ出席ヲ要シ、且ツ、出席委員ノ過半數ノ贊成ガナケレバナラヌ。

第八章　附　則

本會ノ規約ハ總會出席代議員三分ノ二以上ノ贊成ガナケレバ變更スルコトガ出來ナイ。
別表
總會ノ代議員選出率ハ、左ノ通リニ定メル
支部會員三十名以上ニツキ一名、更ニ三十名ヲ增ス每ニ一名、但、端數ガ十五名以上ノ場合ハ一名ヲ加ヘルコトガ出來ル。
以上

らでも役立つものがどん／＼ゴミと共に捨てられて顧みられぬ量がその外にどんなに多いことでありませう。家庭婦人としてわけて考へさせられる事の多い活動寫眞でありました。

一、それから第一回の一般委員等を二十八日に開いて、

二、會員を全國的に殖やすこと（熱心な共鳴者のある所は急いで支部を作るやうに手傳ふこと）

三、各地方、各區域毎に、めい／＼が自分の住んでゐる近邊のさしあたりの問題は何か？　を考へて、婦人消費組合として最もその土地にふさわしい活動をそれ／＼に開始するために協議すること、

四、成べく消費組合へすぐに加入すること（組合のない區域では主婦の立場から共鳴者を誘ひ合せて、早速消費組合を作る準備行動に入ること）

五、婦人と經濟講座を成べく多數聽講すること。

なほ、消費組合については東京では現在幾つもの組合が同一區域にて組合員の奪ひ合ひをしてゐるので、この協會としてどの消費組合に入るやうに勸誘するかその態度決定のために調査研究委員會がまづ活動することになりました。（次回にてどちらかに決定）

なほ、各消費組合の各區分布一覽表を早速作つてみること、各消費組合の特長やい丶點惡い點を調べて、主婦の立場から改善運動にも入つてゆきたいと思ひます。

婦人と經濟講座

第一事業として婦人消費組合協會等が二十八日から催してゐる「婦人と經濟講座」は次のやうな日取りで講師をきめてゐます。

五月二十八日より　六月二十三日まで
毎週　月、金、午後六時――九時迄

第一週
月　米國の婦人ギルドの活動　片岡重助氏
金　消費經濟と政治　高橋龜吉氏

第二週
月　農村の諸問題　杉山元治郎
金　共働組合主義の主張　岡本利吉氏

第三週
月　資本主義のからくり　丸岡重堯氏
金　不正商品摘發の仕方　白柳秀湖氏

第四週
月　家庭經濟と婦人　稻宮又吉氏
金　消費組合と婦人　賀川豐彦氏
土　全員懇談會

婦人消費組合協會についてお問合は、
東京市牛込區市谷本村町四へ、

みなさん本協會の趣旨に共鳴して下さるならば今すぐ入會して下さい。

會費一ケ年一口金五拾錢。事情の許すものは成べく數口を負擔して經濟的に本協會を助けることになつてゐます。

婦人消費組合協會に就て

奥むめお

婦人消費組合協會の目ざしてゐる方向について、最も實際的な問題をつかまへて順々に書いてゆきたい、かう心にかけて思つてゐるのにわけもなく一日々々と日が暮れてしまふので氣が氣でなく妙につらかつた。

昨日のつゞきで今日もまた同じやうにつらい氣持でぼんやりと新聞の切抜きを讀んでゐたら、東京朝日新聞の經濟欄「どうして物價は高くなる」の中に、次のやうなことが書かれてゐるのを發見した。で、その文句を拜借して書出しにすることにした。

………昔の日常經濟學はセーヴイングを敎へた。けれど今日の經濟學はスペンデング゛なければならぬ。如何にして金子を貯ふべきか、よりも如何に有效に金子を拂ふべきかでなければならぬ。

資本主義經濟組織では、決して社會に有益なものだからと云つて作られてゐるのではない。金子が使はれる方向に（卽ち、需要がある方に）製造が向けられる。從つて、九十九パーセントまでの購買力を左右する婦人が、みんな、もし有效な方面に金子を使ふやうにしてくれれば、いゝ品物が安くなつて來る。

經濟界なんて云へばまるで他事のやうな顏をする婦人が多いが、その實婦人は、經濟社界にあつては消費生活の大部分を行つてゐるものである。而も、生産も、その實は消費を目的として生産されてゐるのであるからいはゞ、經濟界の動きは婦人の心がけ一つでどうにでもなるのだとも云へる。

云へかへれば一國經濟社界の繁榮も衰滅も婦人の心掛け一つ。いはんや物價の高下をや！である。ローザ・ルクセンブル

グやコロンタイ夫人のやうな婦人は一人か二人あればいゝが「どうして物價が高いか」を讀んで、如何に有效に金子を使ふべきであるかについて靜かに考へる婦人を經濟社會は尊敬するのだ。

砂糖の値上げが行はれたとき、アメリカの婦人たちは一せいにボイコット（不買同盟）を行つてその不當な値上げをとう〳〵やめさせてしまつた。大戰爭のとき、物價を安くする一助にもと、イギリスの婦人がデパートから買物を自分で持つて歸りませうと云ふ同盟をしてこれを實行した。（日本の三越の調べに依ると、買上品の配達賃が一ケについて平均二十七錢かゝつてゐる割合だといふ。ボーイや車夫馬丁の給料から、自動車、自轉車その他の費用一切合切が一ツあたり二十七錢平均につく程賣價の中に加算されてゐるのだといふ。三越で一日に五千個配達するとして一千三百五十圓、一年に四十九萬二千七百有餘圓也が、めい〳〵に持ち歸ることにしたら、取られずにすむ怠け料である）

婦人の自覺運動はまづ經濟からでなくてはならぬ。そしてこれこそ全ての婦人がもつとも容易に行ふ事が出來る力を持つてゐ、又その地位をもつてゐる。

物價は需要と供給の一致から定まるものである以上、高く賣る商人があるといふ事は一方に高くても買ふお客があるといふ事になる。「盜む奴が泥棒なら、盜まれる奴はベラ棒である」これまでの婦人が物臭さ姫であつたからさうでなくてさへ多すぎた小賣人がます〳〵多くなつてほんの少しのものを賣つてそれで生活を支へてゆくことが出來たのである。何故物價が高いか。婦人が不精だからである。」云々。

ものには、その生產費から考へて相當の値段といふものがある。これまでのやうに婦人が無自覺に、たゞ賣られるまゝに買ひ、買はされるまゝにこれを求めるやうな生活をつゞけてゐる限り、少しでも餘計に儲けたい商人はその無自覺な所につけ込んで、高く、高く、いよ〳〵高く、而もごまかしの利くやうな粗惡品を賣りつけてしまふ。（買ふ者が昏睡狀態にゐたからです）

婦人は今こそ目ざめなければならない。消費者としてはつきりした眼でものゝ値段を見直すことであります！

然し、婦人消費組合協會の理想は、商人の暴利を退治して

めい〱が一錢でも安いものを買へばそれでいゝといふのではは決してない。

元來、どの消費組合でも、値段は公設市場なみで決してたゞ安いといふことだけを標榜してゐないものである（購買會は一般に、共同仕入に依つて安いものを分け合ふてゐるやうであるが、それだけに購買會には消費組合のやうな理想がない！）

われ〱は、消費者としての婦人が團結して、必要なものを共同に仕入れる。それも、生産者の手から直接に仕入れて中間の商人が利ざやをとるのを許さなくする。さういふ事を實行しつゝ、今の社會の商人、問屋卸屋と云つた風の澤山の中間商人は一體何をしてゐる者であるかについてはつきりした事を學ぶ。又、米でも、野菜でも、織物でも買ひつゝ普通に生産者の手から消費者の手に入るまでの經路を知り、消費者が支拂ふ小賣値と比較考察しながら、生産者の日常生活がいかに悲惨な、過勞な、貧しいものであるかについて考へてみる事に依つて、社會問題の一角に觸れてゆく。（さういふ事を考へてゆくと、一人〱の婦人が無自覺なために、商人にボラれてゐる間に、それはたゞ商人のふところを膨れさせてゐるばかりであつて、そのために女工でも、勞働者でも、百姓でも、直接の生産者の貧しい生活の上にはビタ一文の儲けも及ぼしてはゐなかつたのだといふ事を知るであらう）

然し婦人消費組合協會は、もつと社會的に動いて家庭婦人の共同宣言となり、主婦同盟となり、母の團結となつて、これまでとかく無視され勝ちてあつた母の氣持、家庭婦人の立場、子供の保護を社會に提案し、これを要求し、つひに行はれるまで撓ゆまぬ叫びをつゞけてあげてゆくための一つの機關とならねばならぬ。

婦人参政權の必要なことはもはや云ふをまたないのであるが、婦人が男子と平等に持つ權利としてこれを要求するよりも、一つ一つの實際問題を以て、かうして欲しいあゝ改めてほしいと婦人としての要求を強く世に持ち出してそれを實現させてゆけば、抽象的な「われらに參政權を與へよ！」の叫びよりは、どれだけ有力かしれぬ。又、參政權運動者を扶ける後備兵としても、こんなに有力な運動はないし、家庭婦人としてこれならば誰しも出來易い社會改造運動であるであらう。

このためには一人殘らずの婦人をこの婦人消費組合協會の

組織に誘つて來て、婦人全體の要求として、この協會が有力に發動ずる樣にならなければならぬ。

なほ、協會としていつも云つてゐる事であるが、頼りない家庭婦人のために出來るだけこの協會が相談相手になりたい

例へば、法律相談、一般身の上相談、職業紹介、產兒調節相談などは、地域的に各方面の適任者にこれを擔當して貰つて成べく廣い範圍に助け合ひ勵まし合ふこと、各地の消費組合、簡易宿泊所、授產場、隣保館、公營質屋、產院、兒童相談所、健康診斷所、託兒所その他家庭婦人として知つておきたい種々な社會的施設の案内及紹介、（實は、現在にあるさういふ社會的施設はほんとうに少ないし非常に不完全である。我々の協力でいゝものをどん／＼作つてゆき度、社會をして作らせてゆく必要があることをしみ／＼思ひます）それから協會員に仕事を世話する氣持から、成るべく協會員の手に成つた物を買ひ、協會員に注文をするやうにその仲介となること、など早速實行にとり掛り度い事が非常に多い。

附け加へて書かねばならぬ事は、婦人消費組合協會は飽くまで地域的にあちこちに散在して働く會であるといふ事である。班とか、支部とか、がいつも活動の中心になつて、その近所の婦人と互ひに協力して進めて行つてほしい。雜務にせわしい家庭婦人の事であり、家に閉ぢこもり勝ちであつた家庭婦人を一歩、半歩社會的にひき出してゆかうとする運動である以上は成べく遠方へ、長時間誘ひ出すことは不可だと思ふ。取扱つてゆく問題も實行方法も各地、各區の事情に從うていろ／＼に變化しなければならぬ事は云ふまでもない。農村向きに、都會向きに、地方小都市向きに、又、同じく都會向きといつても工場町向きもあり、商家町向きもあり、山の手向きもあろう。要は、成べく澤山の婦人たちの要求を察して、忠實にそのために働く會でありたい。婦人が社會的なことに心をあはせて、協力するといふだけでも、いや婦人として共通な問題についていろ／＼知らせてゆくといふだけでもこの會の意義は大きい。

各地、各區に熱心な共鳴者が出來て誠意ある運動が地味に進められてゆくやうひたすらこれを私は心に祈る。

（隣りの部屋で、近所の子供が十幾人集つて相撲をとつてゐる騒ぎで自分の考へやうとするつゞきさへ心の耳に聞えぬ仕末である。而も最後の締切りの時間が刻々にすぎつゝある。こんなあわたゞしい中でこれを書くのはほんとうに苦しい事であるが、今の場合やむをえずこれで心を殘して擱筆する。）

無產婦人としての警戒

山川菊榮

一　消費組合と階級立場

近ごろ流行の「消費の合理化」といふ言葉については、無産婦人は十分警戒することを要する。なるほど掛買ひよりは現金買ひがいゝにきまつてゐる。でたらめな小賣商人より、公設市場で、目の前でハカリにかけて、品物を見て買ふ方がいゝにきまつてゐる。主婦の注意で小賣商人の暴利やごまかしを防ぐとは、もとより必要でもあれば、結構なことでもあるにきまつてゐる。一歩進んで、消費組合の利用によつて、小賣商人を排除することが、更に一層よいことであるのは、なほ更きまりきつてゐる。

けれども無産婦人の立場からは、それだけでは足りない。個々の主婦の買物の手腕や、單なる消費組合への加入によつて、無産階級の生活が安定するかの如き幻影を與へることは、これまた支配階級とその手先の慣用手段である。今日の生産は、利潤のための生産であり、消費者のための生産でないといふ根本の問題をさしおいて個人經濟の範圍において、消費者の利益が、一般的に擁護し、增進されるといふような幻影を抱かせることは明かに支配階級的僞瞞の最なるものである。

主婦がいかに細心の注意をもつて買物に氣をつけたところで、保護關稅や、消費稅やトラストやシンヂケートの作用による物價の騰貴をどうして防ぐことができるか。また無産者の生活を脅かす失業賃銀低下等、謂ゆる資本の攻勢と戰ふとなしに、單に消費組合に加入するといふことだけで、どうして生活標準の低下を防止することができるか。卽ち一般的な政治、經濟上の政策、及びその政策を生み出すところの全組織、利潤のための生産組織そのものと戰ふとなしに、どうして消費者としての無産者の利益が擁護せられるか。眞實の意味における消費の合理化とは、眞實の意味における生産の合理化と等しく、資本主義經濟の範圍內では得られないものであり、消費組合運動もまた、無産者運動の一部分として理解せられ、階級鬪爭の一つの武器として用ゐられるのでない限り、かへつて無産者の奴隷化を助けて、資本の支配を永續させる道具となる。外國の消費組合運動の歷史によつても見られる通り、それが資本主義經濟の根本の問題にふれずに、一般的な無産者運動から獨立した體系として發達するに至るや否や、ブルジョア的官僚幹部の指導のもとに、資本主義的社

會議構の補助的構成要素に墮し去つて、無産階級を裏切る結果となるのである。

昨年の國際消費組合大會、同婦人會議においては、消費組合の政治的中立を固執する官僚幹部と、世界經濟と國際間の政治的形勢が直ちに消費者の運命に直接重大な影響をもつことを認めて、消費組合運動もまた、國際無産者運動の一翼として、帝國主義戰爭、植民地抑壓其他の反動政策に斷乎として反對せねばならぬと主張する無産者側の主張とが激烈な衝突を見た。尤も幹部は、ロシア、其他二三の小國を除くのほか、卑劣な干渉によつて左翼分子の大會派遣に壓迫を加へはしたが、婦人大會の方も一般大會の方も、左右兩翼の對立は蔽ふべからざる陰慘な空氣をもつて、大會を壓迫してゐた。其後官僚幹部は國際消費組合同盟から、ロシア消費組合を除名する陰謀を企てゝゐるらしいので、いづれこの問題を中心に、左右の鬪爭は、更に一段の紛糾を增すことゝ見られてゐる。

日本の消費組合運動はまだ極めて幼稚であるが、それでもすでにさういふ改良主義的傾向の發達が見られないことはない。例へば比較的よく發達してゐるといはれる神戶の如き、すでに勞働階級及び勞働組合とは全然沒交涉のものとなり、完全に小ブルジョア改良主義者の手に歸してゐる。この運動の擡頭期に當つて、無産階級……特にその婦人の間に、この問題に對する階級的な考へ方を徹底させておくことは、今後の發展の方向を決定する上に、重大な關係をもつのである。

資本主義經濟の內部における『消費の合理化』とは、要するに階級鬪爭廻避の手段としての、資本家階級のごまかし的宣傳に外ならない。生産も、消費も、眞實に「合理化」され得る社會に、たゞ利潤のための生産組織に對して、あくまで徹底的に戰ふことによつての外、實現される道はないのである。

二 フーバーの「無駄」と資本主義の「無駄」

前號所載「無駄の研究」は資本主義經濟の矛盾と混亂とが、いかにその經濟の維持存續を念とする人々自身をすら當惑させ、煩悶させてゐるかを一見明瞭にする效果があつたことゝ思ふ。

「無駄を省け」「能率を增進せよ」とは、資本主義經濟の神聖なるスローガンである。いはゆる『産業合理化』は、この舊いスローガンに新しい着物を着せたものにすぎない。

生産分配の方法の部分的な技術的改善に關する限りでは、浪費を省いて、生産力を增進するといふ合理化の主張も一應は合理的らしく聞かれないこともない。のみならず浪費を省いて能率を增進するといふこととそれ自身は、文明の要件として、何人も異議を唱へる必要は見出さないであらう。問題は、そのことによつて何人が——一層正確にいふならば——どの階級が利益を得るかといふことにあるそして同時に問題は、資本主義の經濟組織の內部で、本當の意味での合理化、生産と消費との合理的な調節——が行はれ得るかどうかといふ、一層根本的な點に

か丶はつてゐるのである。

無制限なる競爭と生產の無政府狀態とは、資本主義經濟それ自身にとつても、もはや堪へ難いほどの重荷となり、その生命を脅かす危險とまでなつてゐる。そこでかような狀態から自己を救ふために資本主義發達させたものは、小生產者を犧牲とする大企業、大規模生產でありトラスト、カルテル等々である。大規模生產と獨占とによつて、小生產者と小資商人とは壓迫され、獨立の經濟的地位を失つて賃銀勞働者の階級に落ちてゆく。

フーバーのいふような意味での生產及び分配上の「無駄」とは、畢竟小生產と小商業者や中間業者の介在による「無駄」をいふので、この程度の「無駄」を省くことは、資本主義經濟の維持と存續との上に、ブルジョアジーの階級支配の上に何らの危險を及ぼさないのみならず、かへつてそれらにとつて、必要にして有利な結果をもたらすのである。即ちこの程度の「無駄」は大規模生產と獨占の發達とによつて除き得られるところであり、現に資本主義經濟は、その方向に向つて進んでいつてゐるのである。

それでは、そういふ方向への發達が、少しでも無產階級の生活を安定させる力をもつだらうか。フーバーの謂ゆる「無駄」が省かれ、企業の合同統一が行はれた結果は、賃銀勞働者の上に、いかなる影響を與へたであらうか。

無產階級の立場に立つ者にとつてはこの點が最も重要な、根本的な問題である

大資本と獨占の發達が、生產者をプロレタリア階級に振ひ落し、プロレタリアと貧農とをます／＼激しく搾取することによつて、より大なる發展と膨脹とを遂げ、都市に、農村に、その侵略戰を逞しうしてゐる事實は、事新しく說くがものもあるまい。資本主義下における資本家階級それ自身のための、生產方法の技術的改良や、經營の「合理化」をもつて直ちに無產者の生活安定と結びつけるような幻影を抱かせることは、彼等一流の欺瞞である。彼らはかくして、彼等が、より大なる利潤と、より大なる階級的特權とのために企てつゝある改良を、無產者の生活安定と密接な關係あるが如く欺くことにより、階級鬪爭の激化を防止しようと努める。株式會社の起つた始めには、これによつて何人も株主となり、生產の上に發言權をもつことにより、勞資協調が促進されて、階級鬪爭は消滅するだらうと豫想したものである。それと同樣に、產業合理化や、獨占同盟の發達が無產者の生活に少しでも關係があると思ふことは、階級社會の何たるかを知らぬ大たわけの夢である。勿論、それらが無產者の生產をます／＼不安にし、ますます窮乏化させるといふ意味では、それは吾々の生活に重大な關係がある。けれども、少しでも有利な影響を與へるといふ意味では、絕對に關係はないのである。

聯合軍の維幄に參してハンガリーの勞農革命を絞した下手人であるフーバー、ロシアの無產者革命をも同じく絞殺せんとして、死力をつくして經濟封鎖を行つた張本人であるフーバー、アメリカの金

（五〇頁へつゞく）

冷たいスリッパ

木村てるよ

病院の
はてしない廊下に冷たいスリッパをはけ
整形外科のクロヽホルムの中に
金線のようにするどい
子供の泣聲をきくだらう
生れてたつた一月やそこいらで
五體にしみる痛みに
みじめに泣くのをきけ！
お前の足がまがつてゐても
いゝぢあないか

大人達はよつてたかつて
　おゝなぜそんなに痛くするのか
　　なぜそんなに痛くするのかよ

お前の一生のためにするのか
自分達のためにするのか
待合室に横になつて
順番を待つ私迄が　泣きたくなる、
私も、不具者だ、
「カリエスと乞食にはなりたくない」
と夫は笑ひ、妹は冷かすが
だつて仕方がない。
少しでも樂にしてもらひたくて
けふも、やつとの思ひで來たのだ。
やけで感じるのではない。
この世の中にはもつと〳〵
まがつてならない多くのものが
まがつてゐるじあないか。
まつすぐだ、まつすぐだと口にいひながら、

みんな私の脊骨より
そしてお前より
一體どれ位、出來がいゝのだ。

病室の窓から外を見るがいゝ、
何もかも
みんな表現派の映畫のやうに
まがつてゐるじあないか！
社會は制度のために、
勞働者は資本家のために、
子は親の虚榮のために、
妻は、夫の利己主義のために
金力のために、
空しき地位のために
名譽といふまぼろしのために、
みんな、みんな、まがつてゐる
まつすぐなものはゐるものか。
一つだつて、一つだつて
あるものか！

お前の親達は
いまその足をのばす努力をもて
やがての日にお前の心をまげるのだ。
うそつきにするのだ。
汚すのだ。
まつすぐにものを感じなくするのだ。
現在の荒療治が愛で、
將來の僞善教育が、愛だと!?
どうしやう! 私は倒れそうだ。
泣くな、小さいもの
お前の生れつきまがつた足に
誰も責を負ふことはない。
誰も——何物も——

わたしたちは、まつすぐだ。

だのに、大人はえらそうに
　おゝ、なぜそんなに痛くするのか、
なぜそんなに痛くするのかよ。

初夏の生活愛

生田花世

花散る頃の時々の雨、今年も雨の多い時に近づいたことを考へると、たつた一本になつて了つた蛇の目の傘と、破れ傘とだけでは不自由だからと思つて、感心なことには晴れた日なのに傘を買ひに行く氣になる。そんなに用意のよいといふ質でもないのだけれど。

　雨傘といふものが丁度書物のやうで人に借すとなかなか歸つて來ない。それは誰れでもさう云ふ。たまたま雨傘を晴れてゐる日など提げてかへしに來てくれる人があつたりすると「よくまあ……」とおもはずいつて了ふ。そして、いつしか私など雨傘がそれきり歸つて來なくつても格別何とも思はない。「どこへ行つたのだらうかしらねえ」と雨の降る日になつて思ふ位。

　雨傘はまたよく人のものと代へてもつて歸つてくる。また先客のために代へられて行つて了ふこともある。むかうの傘がよくてこちらの傘がわるいときなど何かかうすまない。こちらの方へ少々古い傘が來た時には、そのまゝにして了ふ。かういふ氣持はよく誰れにもあることだと思ふ。

　何にかぎらずさうであるけれど、傘と下駄とは特に店の好ききらひが人にはあるだらうと思ふ。私なども安い高いでえらぶよりも何となく氣分のしつくりとする店でそんなものは買ひたいので、少し遠いけれどいつも買ひにゆく店まで行つて、いろ／＼な傘をひらいて見せてもらつた。買はうとおもふのは女持のもの、ところで、紺があり藍があり緑があり、赤茶色のもあるし紫もある。紺の傘にしようか、紫の傘にしよ

うか、それとも藍のにしようか赤みがかつたのにしようかと次々に開いてくれるのを見てゐる氣持は又となくいゝ。傘のひらくとき音がさつと立つのをきくのである。蓮の花の開く時には音がするこの色とり〴〵の傘の花の開く時の音はもつと強い。意氣むきをお目にかけませうかといつて、菊だの櫻だの、燕だの、時にははでな圖案のものだのゝお菓子のやうな傘をひらく。

「いゝのよ。私は地味なのがすきだから」

かういつて私は、私の柄にあふところにおちつく、紺か紫の傘に。

紺の蛇の目の傘に春雨を、もしくば五月の靜かな雨をうけて歩いてゆく心持は實にたのしいものである。それからすらりとした美しい娘とか、若妻とかゞ緣の雨傘をかしげて歩く姿、赤みかゝつた雨傘をほどよくさして亻む姿などを雨の日の街に見るのもたのしいものである。

春雨や裏戸入り來る傘は誰れ

これは子規の句だといふ。誦んじていふにいへない日本の雨の情趣と柔かい人情とがこもつてゐるのを感じさせる。春雨の句は他にもなほ佳い句が多いであらう。春雨の詩、春雨の歌、それも實に多いであらう。しかし雨傘そのものは雨をまつて現れる。秋は時雨の夕の傘、冬は雪みぞれの中の傘夏は夕立の中の傘この夕立の中の傘はまづしるし入りの番傘とすべきであらう。今では、紳士はパラソルですまして了ふ。嵐の時とか夕立の時とかには雨傘はとても耐へない。風が吹き立てゝ上へ開いて了つたり、柄降りがしたりしてまことに纖弱であるから。

子供だつた時分、私は、雨の降る朝學校へさして行つた傘を、かへりのみちで、くる〴〵と車のやうにまわして見せる友達があつてそれがいかにも面白かつたので、自分もくるくるとまはして歸つて來た。

「これ、そんなことをしては傘がこはれて了ふ……」

門のところで母親が見て、驚いてとめたことを今でも覺えてゐる。そんなことや、雨ばれの日ざしのパット照る中で、かはかしてある何本もの傘を母にいひつけられて、家の中にとりこんで、それを一つ〳〵たゝんで、筋目々々に指を入れて折れこみを中に入れて行つたことなどみななつかしい思ひ出である。

あつい夏の日にさす日傘の氣分もいゝものであるが明るい雨の草みちを頭から肩から濡れながら歩いてゆく時、家のものが傘をもつて迎ひに來てくれたのなども忘られがたい氣分である。

　雨にぬれてみんなが雨やどりにかけこんでも、一向平氣で、ぬれるがまゝにあるいたといふ奇人のことが伴蒿蹊の『近世畸人傳』の中に出てゐる。この雨にぬれても花をめづる心持も又なくいゝが、雨にぬれるといふことが面白くてわざと傘をさゝないで歩きまはる氣分が、私なども子供の時にはあつた。もつともその雨暖かい柔かい南國特徴の細雨であつたけれど。美しい都パリの著者がパラソルをさゝないで、樂しげにして町を歩くといふ詩をいつか誰かのもので讀んだことがある。パリの雨もやはり明るい雨なのであらう、そんなことの出來る時には。

「逝く春」又は「京の雨」さういふ題をもつ繪とか寫眞とかにこの雨傘のなゝめの形、半ばひらいた形などが現れてゐるのを見るといかにも綺麗だし、芝居の舞臺にみる助六の傘、定九郎の傘、又は小野の道風の傘小野の道風は吉右衛門だつたか、そのさしかざしてゐる姿の佳さ、青柳の糸もしなやかな品のいゝ公卿姿に昔の日本がまどらかな夢を描いた。この間讀んだある人の北極のはての都×××××にある博物館(?)に日本のものとしてこの雨傘が一本陳列されてあつたといふことだつたが、雨傘一本が日本を代表するといふことは可笑しいといへば可笑しいけれども一寸要領をえてゐるやうな氣もすると思つたことであつた。いつか日本もみなパラソルをつかふやうになつて、雨傘などいふものが日本でもやはり古い日本の見本のやうになるやうな時も來ないとはいへないけれど、今はまだ雨傘の情趣に觸れ得る私たちである。パラソルよりも日傘雨傘の好きな私たちはけだし、古いであらう。

消費者のこの重い負擔をごらんなさい！
消費者は消費組合を作つてこの負擔から自らを解放するやうに圖らねばならぬ。





悲しき搖籃

—蠶期農村の子供のこと—

池田むめ

此れは極めて下手な私の作品(?)の一部分で有る。この中に蠶期勞働に出て居る母と云ふのが有るので蠶期婦人勞働者の勞働時間を記して見やうと思ふ。

先づ朝は五時起床、夜十一時就寢、夜中給桑に用する時間、一時間半、計十九時半の勞働。但し、晝休みが一時間、朝と夜の御飯時に各十分づゝ休、

差引勞働時間、十八時間十分である。

他に例外勞働が此の外に有る。

たとえば雨模樣の日など、晝休み無し。朝四時起床、摘桑不足も生じて夜十二時乃至は一時就寢。

此れが蠶期農村婦人勞働者の勞働時間數で有る。何んと素晴しい勞働時間でないか。おそらく、蠶期婦人勞働時間程亂暴なものは有るまい。平均一日正味十八時間、内至十九時間以上働く勞働者は一體どこに有るだらう。正に、一般に長時間勞働とされて居る男子農村勞働者の勞働時間を優に、四五時間は越えて居る。而も、依然として男子勞働者の賃銀の其れよりも婦人勞働者の賃銀は、一割内至一割五分の差が普通とされて居る。當然婦人勞働者は蠶期勞働は、男子勞働者の賃銀よりも

逆に一割乃至は一割五分ぐらゐ賃銀値上げの要求をしたとて決して不當ではない筈。

今や、糸價繭價不振の名に於いて、土地の大蠶業家や蠶種製造家は益々惡逆亂暴なる勞働時間を、今までの其れよりももつと〳〵ひどくこき使はうとして居る。さうして賃銀の低下を村役場の謄寫版は定正し行くのだ！

かういふ狀態の下におかれてゐる農村婦人はもちろん新聞などを讀む事さへなし得ない者だ。其れは、以上のやうにして時間をもたず、字を讀む能力とを持たぬからで有る。他パンフレツト、單行本、以つて知るべきのみである。從つて、種々の社會運動中、おそらく農村婦人運動ほど困難なものは有るまい。然し、であるからこそ、農村婦人の運動が起らなくなつちやならないのだ。農村婦人に呼びかける事は非常な努力と勇氣とが要る！ そして非常な根氣が要る！ 請ふ試みに本紙の執筆者の諸兄姉や一般購讀者の諸氏!!

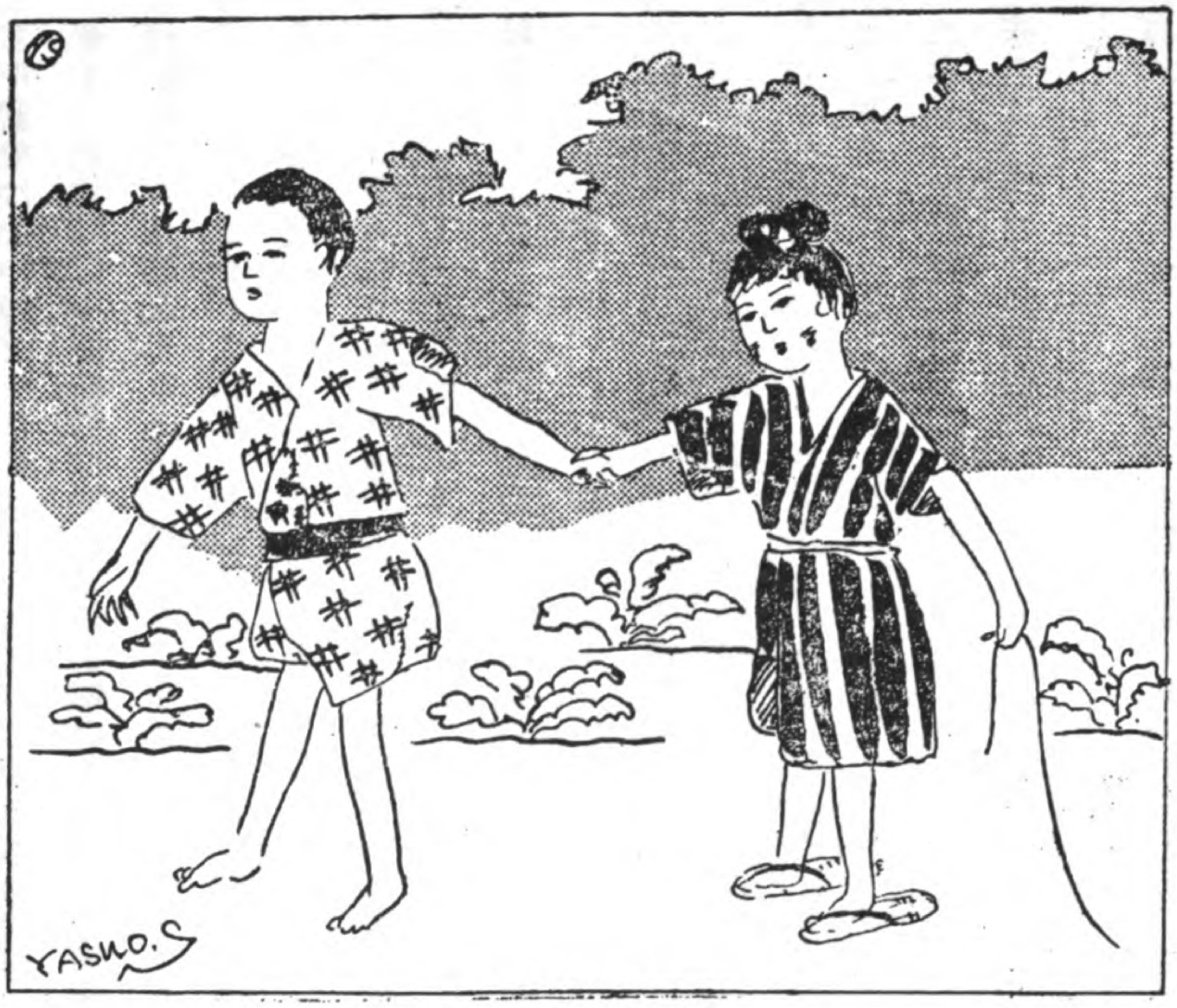
來りて、現在の蠶期農村に勞働せられんことを。

三・五・一二、

暮れかけて、一日の淸算の灰色が靜かに農村の蠶屋の並立した地を抱む。刻々に灰色がせまる。だが依然として桑畑からは低級な俗歌が哀れつぽく聞えて來るのだ。

汚ない道を素足で三才から五六才位ひの女の子男の子がピタ〳〵と步いて行く。よれ〳〵のつぎだらけの着物を細いヒモ一本でだらしなく縛つて、兩の袖口はハナをこする爲にピカ〳〵光つて居る。どれが女か、どれが男か、わづかに髮の毛の長さによつて知る事が出來る外には一切見わけと成るものは見あたらない。袖は綻びて、二寸位ひで落ちそうなのは未だ上の部、片袖はまだしも、兩袖をもぎ取つてか、ほころび取れてか、それでも大切にふところに仕まつて、晩春のうす暗みの空の下を母に會える懷しい心をいだきながら歸つて行く……

今一日の幼年の日のヤンチヤな遊びから歸つた所だが、淡暗い電燈がボンヤリついて、そこいらぢう雜布の古物だの、茶碗の缺けだの、古股引に泥が着いていつの間にかガワ〳〵に乾いて居るものだの、二三枚敷かれたムシロの上には大根漬のしなびた切れハシが一ッ新聞紙の上に殘されて居る外に破れ戶が微風にゴトン〳〵と肺病人のセキの樣に音して居るだけで誰れも居ない。晩春の日はもう暮れて淋しい母懷しい心が兩の目頭にイツパイ淚をためてしまつた。



「あゝそうだ、母あちやんはよその家に手傳ひに行つて、蠶が上つたらさいすぐ歸つて來るんだつけ。父ちやん、父ちやん、父ちやんはど處へ行つたんだらう。今日も桑畑からまだ歸つて來ないんだらうか」

トコンと破れ戸の半あきの泥まみれのシキヱに腰を下して晩春の空氣が持つ限り無い淋しさと、母懸しさに、現實に乳房の夢を追ひながら、晝のつかれで、コックリ、小さな者のみの持つ天しんな氣持で、父の歸りを、淡らまどろみの中で待つた。

さつきまで破れ戸をヒツキリなしにユスブつてゐた微かな風さへも、この小さな者のしばしの夢を破るまいとしてか、靜かに止んだ。

あゝあゝ父よ、母よ、歸れ。この小さな者の爲に！　兩袖はほころび落ちた。母よ！　たとひ其れが破れた袖であつてもいゝでないか。縫ひつけてやつて呉れ。早う歸つて呉れ。それよりも、それよりも、夜毎の、あのおびえた夢をいやす乳房が欲しいのだ。

父よ！　夜が來てカワズが鳴くではないか。何故こんなに晩うなつたのに、未だ歸つて呉れぬのか。休日の肩車が思ひ

出される……

つかの間止んだ微風がウソ寒い晩春の夜風と變つて、小さな者のしばしのまどろみをゆすつた。無性に母戀しさがせまつて來る。ほころび落ちた片袖をぶら下げて、スツカリ暴れ果てた野良の草道にボンヤリ立つた。ゴゴッゴゴゴ鳴き立てるカワズの聲に、こらえて居た悲しさが一時にこみ上げて來て哀れな聲で母を呼ばせた。

「母あちやん」

「母あちやあー」

夜風は無限の悲しさを、あまりにも無慘に、ともあれ、それが小さな者に取つての唯一の惡逆に對する反逆の芽生えの一ツの試練……、有るにせよ、なんと限りなくそして哀れな空氣を持はこぶことだ！

「母あーちあん、母あーちやん」

どんなに呼んだとて叫んだとて、母は歸らぬであらう。

おゝ世の無產の母達よ！　悲しさに叫びつゞける愛兒の聲を聞け！　何故、かくまでに戀ひしたふ最愛の小さな者を獨り、それも日ぐれ時のわびしくさみしい時刻に悲しく叫ばせて、自分のそばで愛撫することが出來ないのであるか。

おゝ貧しき父よ、何故最愛の者が求める肩車を、しばらくなりとも與へて喜ばせてやることが出來ないのであるか。

母あーちやん、母あちやんと、たとひ何時まで呼びつゞけたとて。其の弱き勞働力を搾取されるべく土地の地主の家に働いてゐるところの母がどうしてか、歸り來よう。

貧しく悲慘な小さな者の母戀ふ悲しさに泣く冷たい涙が、トボリ／＼足下の夜草をぬらす泣きつかれてか、腹がスイてか、あきらめてか、母呼ぶ聲はかすれ止んだ。

フト、幼年の日のまばたきの其れにもまして淡い星が一ツ西の空低く流れて行つた。—完—

おともだち

村山文子

むかし〳〵のその又むかし、或お山のおくの森の中に、小さなかあいらしいお家が一軒ありました。チョコレート色のおやねに、あたゝかさうなクリーム色の壁、そしておまどには、みどり色のカーテンが風に吹かれて居て、あかいチューリツプの花がニコリとおかほをのぞかせて居るのでした。このきれいなおうちには、一體だれがすんで居るのでせう。おさるのチー公と、うさぎのミー坊が、二人で仲よくくらして居るのでした。

ひがしのお山のうしろから、お日さまがお出ましになるとあちらの木からも、こちらの枝からも、かあいゝ小鳥たちがおめゝをさましてとび出して來ます。おかほをあらつてから



みんないつしよにげんきよく、朝のうたをうたひます。それが小鳥たちのごあいさつなのです。さうすると、その聲を聞いてもう朝になつたのかしらと、まづ栗鼠のチョッピーが、おめゝをこすりながらとんで來ます。やがて、チー公もミー

坊も、お家から出て來て、みんなといつしよになかよくあそびます。

チー公は、木のぼりが上手ですから、高い／＼木の上のおいしさうなぶだうや、かきや、又なしだのもゝだの何でもかんでもとつて來ては、ミー坊に分けてやります。

ミー坊は又、里に出て行つて、お百姓さんの畑から、大きなキヤベツや、お芋や、それからお大根を堀つて來て、チー公となかよくたべるのです。二人はほんとうにしあはせに、たのしくくらして居りました。

ところがそのうちに、だん／＼とさむい風が、北のお山のむかふから吹いて來ると、森の木の葉が、一枚々々黄色や赤にきれいにそめられて、チー公とミー坊のおうちのまはりは、まるで繪のやうに美しくなりました。或あさ、ふとお山の上をみると、まあ、お山は何時の間にか、まつしろな雪のお帽子をかぶつて居ました。たう／＼冬のおぢさんが、この森にもやつて來たのです。

小鳥や栗鼠は、また來年、暖かい春のおひめ樣がいらつしやるまで、森のお家から南のお國へ行く事になりました。

あとに殘つたチー公とミー坊は、それから一日／＼とさむくなる森のお家で、それでも仲よくストーブのそばで、お話をしたりご本を讀んだりして暮して居りました。

あるばん、二人がお話をして居ると、おもての戸をトントン、トン／＼、と叩く音がします。

「オヤ、いまごろに、一ただれが來たのでせう」と思つて、ソッと戸をあけますと、そこには一人のおばあさんが、お杖をついて、まがつたこしに手をあてゝ、しよんぼりと立つて居ました。

「まあおばあさん、こんなに夜そそく、どうなさつたのですか？」とチー公が聞きました。

「おゝ、かあい、おさるさんですね。わたしは、とほい／＼ところから來たものです。どうかこんばん泊めて下さい。」とおばあさんがたのみますので、チー公とミー坊は、

「さあ／＼お入りなさい。外はさぞおさむかつたでせう。ストーブも、もえて居ますし、あたゝたいごちさうもありますから、中へ入つて、ゆつくりおやすみなさい。」

二人はおばあさんのお手をとつて、ストーブのそばに、すわらせました。おばあさんはたいへんによろこんで、お火にあたり、おいしいごちさうをいたゞいたりして、それから、

いろんなとほい國々の、めづらしいお話をたくさんして聞かせました。二人はお目々をまんまるにして、お首をかしげていつしやけんめいに聞いて居ました。だつて、それは〳〵ふしぎな、おもしろい、おはなしだつたのですもの……。

かうして、そのおばあさんは、チー公とミー坊のおうちの人になつて、三人で仲よくくらすことになりました。

そのうちに、たう〳〵三人のお家のまはりにも、雪がつもつて、森の木がみんな、まわたのきものを着て、さむさうにふるへて居るやうになりました。チー公とミー坊は、いつしやうけんめいに、お山や森や里をまはつて、冬中たべ物を、どつさりとあつめて、おくらにしまつておきました。それからは毎日毎晩。さむさがつのつて來て、外に出ることも出來なくなつてしまひました。

ところがある日、こまつたことが起りました。たべるものがなくなつてしまつたのです。チー公とミー坊は、ひたいをあつめてさうだんをしました。そして、仕方がないので、代る〳〵外に出て、雪の中に埋れて居る木の實やなにかをとつて來ておばあさんに上げることにしました。

それでもおさるのチー公は、木のぼりや、岩のあひだをかけまはつたりすることが、上手でしたから、なにかしらさがして來ることが出來ましたが、かあいさうなミー坊は、何もみつけることが出來なくて、すご〳〵とかへつて來る日が多かつたのでした。

ある大雪の日のこと、ミー坊は今日こそ何かみつけて來ておばあさんやチー公をよろこばせたいと、さむいのもおなかのすいたのもわすれて、いさんで出かけました。

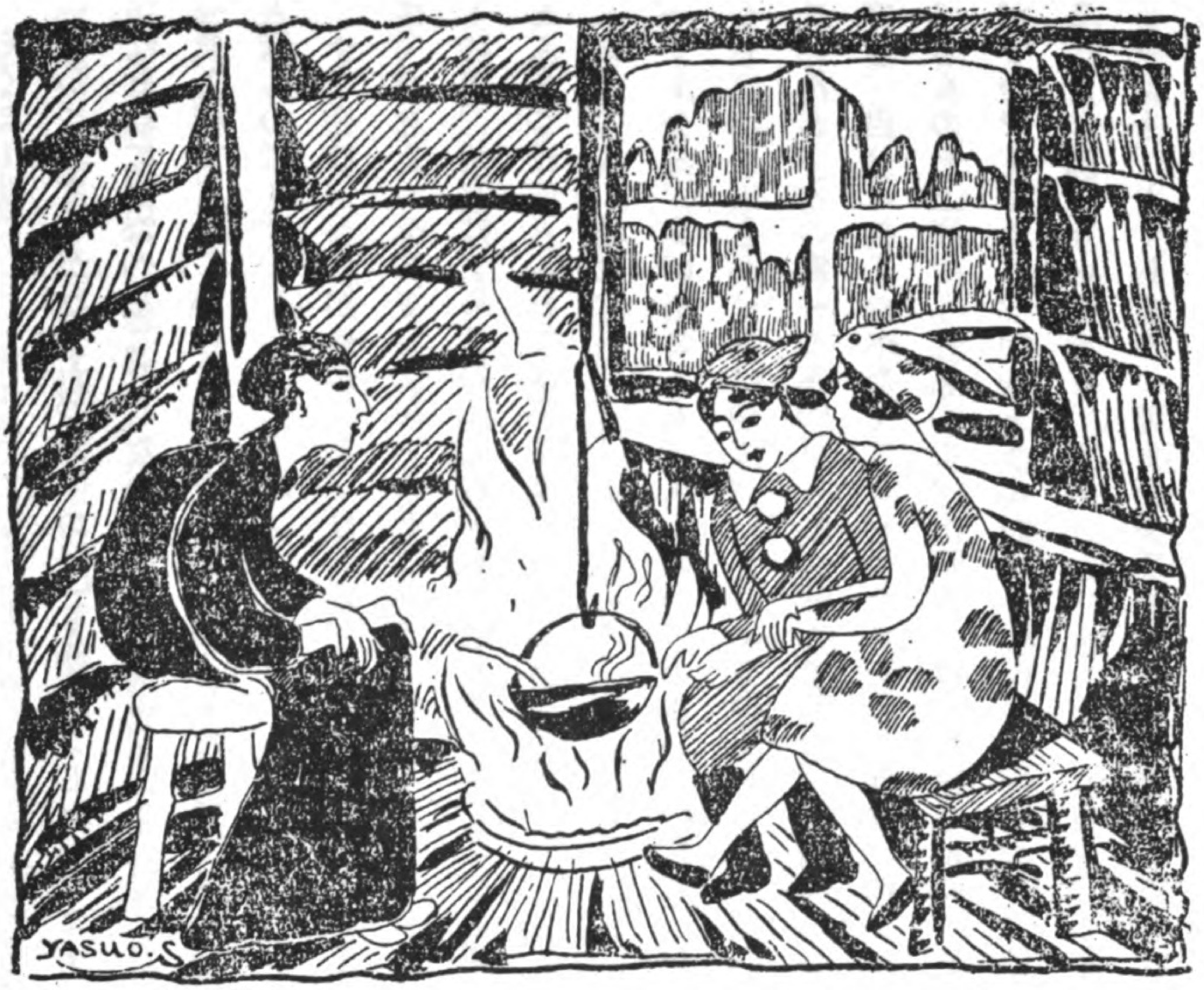
ミー坊は、いつしやうけんめいになつて、あちらの雪の中も、むかうの洞穴の中も、方々をさがしまはりましたが、今日もまた、木の葉一枚落ちては居ませんでした。ミー坊は、かなしくなつて、シク〳〵泣き出しました。

ふと、ミー坊はすばらしいことを思ひつきました。

「さうだ！　さうしやう。さうすれば、チー公もおばあさんも、おなか一ぱい、ごちさうがたべられる」と思つたので、なみだを拭いて、こんどはげんきよくとんでおうちにかへりました。

チー公とおばあさんは、ミー坊がニコ〳〵してかへつて來たので、なにかきつとよいごちさうをみつけて來たのだと思つてみると、何もミー坊は持つて居りません。チー公は、さ

つそくミー坊に、
「何かごちさうがみつかつたのかい」と聞きましたが、ミー坊はそれにはおへんじをしないで、チー公に
「まあ何でもいゝから、すぐお火をどん〳〵たいて下さい」
と云ふのです。
　チー公は、わけがわからないけれど、ミー坊の云ふとほりに、まきをくべてドン〳〵と火をたきました。そして、一ミー坊は、何をはじめるのかしらと見て居りますと、おばあさんもあつけにとられてぼんやりしてしまひました。
　やがてミー坊は、
「チー公も、おばあさんも、よく聞いて下さい。今日もわたくしは、お山をかけまはつて、いつしやうけんめいにさがしましたが、木の實一つみつけられませんでした。私は、いつでも、自分は何もたべなくても、あなた方にだけは、何か食べるものを上げやうと思つて、出來る丈け、かけまはつてさがすのですけれど、いつもうんがわるいのか、何一つみつけることが出來ないのです。
　今日も、どうしても、何も持つてかへる事が出來なくてほんとうにすまないと思ひます。それで、私はこの私のかだらを、このもえて居る火で燒いて、あなた方にたべていたゞきたいと思ふのです。
　では、おばあさんもチー公も、さようなら！　長いあひだおせわになりました。
　チー公、おばあさんをお大事にして上げて下さい。」
と云つたかと思ふと、そのぼん〳〵もえさかつてゐる火の中に、とび込んでしまひました。
　すると、まあ、どうでせう！
　今までもえて居た火は、たちまちに消えてしまつて、火の中にとび込んだはずのミー坊は、しつかりと、おばあさんの胸にだかれて居りました。
　おばあさんは、目に一ぱいなみだをうかべて、ミー坊をなでながら、
「ミー坊はほんとうに、りつぱな行ひをしました。私は天の使ですが、この世の中に、ほんとうに正しい者をさがすために來たのです。そして今まで、いろ〳〵な國をまはつて、たくさんの人や、鳥や、又おさるさんも、犬も猫もみましたけれど、ミー坊のやうに、お友達のために、じぶんをころしてまでつくさうといふ、うつくしい心のものはありませんでし



た。

　ミー坊のこのよい心がけは、人間も天の使でも、きつとお手本にしなければならないと思ひます。私はミー坊のおはなしを、世界中の子供たちにしてあげませう。そして、みんながお友達のために、人のために、じぶんのことをすてゝつくすよい子供になるやうにいたしませう。」

　と申しました。

　そしてそのまゝ、おばあさんの姿は、見えなくなつてしまひました。

×　×　×　×

　今でもきつと、この天の使は、世界中のどこかで、このおはなしを、子供たちにして聞かせて居るでせう。

　私も、あなた方ぐらゐの、小さな子供のときに、このはなしを聞きました。

　それは丁度、櫻の花が、まるで吹雪のやうに散つて居る春の夜でした。おまどから、すつと風が吹きこんで、花びらがさそはれるやうに、お部屋の中に入つて來ると、それと一しよに、あの天の使が私の前に立つて居ました。さうしてやさしく、ぽつ〳〵と話して呉れたのでした。

　若しかすると、今ばんにでも、この天の使は、あなたのお部屋に行くかも知れませんよ。

化學者の化粧話

兒玉玄三

一昨年、面白い動機から一つの化粧水を發明して以來、私の事を化粧化學の專門家の樣に云ふ人がありますが、當の本人は至つて呑氣で、化粧のケの字も知りません。難かいクリームが使用法さへ知らない位ですから、今度奧むめお氏から化粧の事を書けと云はれて一寸面喰ひましたが、そこは生れついての圖々しさ、えゝよござんすと涼しい顔で請合つたが、さて之れからが生みの苦しみ。

一體化粧と云ふ事は誰れが始めたんだらうなんて考へては話が理に落ちて面白くない。アダム、イヴだつてきつと粘土ぐらひ顔に塗つた事でせうと云ふのは、化粧は人間だけの特權ではないのです。カイツムリだの小屋鳥の樣な鳥は、交尾期になると雄が盛に草や木の葉をくはへていゝ氣になつて歩きまはつたり、麝香猫(じやこうねこ)や鰐(わに)が芳香を放つのも、皆、人間の化粧と匹敵する慾求の結果であります。

即ち換言すれば、明白に御本人が認識して居ない迄も、性の問題から大して遠く離れては居ない事は確かです。故に化粧と云ふ事は、一つの本能と見てよいでせう。若し出鱈目な熟語が許されるなら好美本能とでも云ふのでせうか。二つか三つの子供が既に鏡臺に向つて盛にこそ〳〵やるのを見ても此の本能が如何に根強いかゞ解ります。

以下漸次、化粧から受ける利益と害毒に就て述べませう。

人の皮膚には汗線と云ふ孔が無數に開ひて居る事は御承知でせう。此の孔の中に不潔なゴミが入り込むから、年をとると色がきたなくなりますが少々位洗つても孔の内の物はとれません。之は化學的に、マツサージクリームで有らねばなり

ませんが、今の市販品はまだ〳〵研究の餘地が充分にあります。此の孔の內にニキビの虫が入り込むと所謂ニキビになるのです。

ニキビと云ふのは、青春時代の濃厚な脂肪だなんと考へとる人もある事でせうが、實際は中々そんなロマンチックなものではなく、寄生クモ類に屬する小寄生虫で、長い足が八本あつて、奇妙な顔をして居ます、こんな奴を大切な顔に飼つて置くのはちと御丁寧過ぎる慈善家ですが、此の虫の奴中々頑弱で力の弱い薬用化粧水なんかをつけると、奥深く逃げて行きます。斯うなると事が面倒で、皮膚の表面は少し高くなつてる位ですが、指先で押して見ると奥の方に堅い塊になつて居ます。之を豫防するのは化粧の力です。先づ顔をよく洗ふと毛孔の相當の深さの處迄は汚れが取れますから、ニキビの虫が入らないうちに上等の化粧液でもクリームでもつけて、毛孔の中を一杯にして置くのです。斯うすれば、ニキビの虫が來ても、顔に孔がないから、もぐり込む事が出來ません。處がニキビの人はよく入浴の時、湯にひたつたまゝ、いゝ氣持ちになつて顔のニキビ退治をやります。さうすると追出された虫が湯の表面にパッと浮く、本人は何も知らないで上つて來ると、今、顔から追出したばかりのニキビの虫を、今度は首筋や背中にもらつて來る。本人は、背中にニキビが出來たなんてあきらめて居るから罪がない。

化粧も今云つた樣にニキビ豫防であれば醫學上から云つても誠に結構な話ですが、誰れがきめた事だが色は白い方がいゝと云ひ出した結果が、白粉の要求となつて來た。其の結果が悲惨な鉛毒となりモルヒイ中毒となつて來ます。乳兒の腦膜炎の殆ど大部分は無智な母親――（或はその夫の無理な要求かも知れない）――の白粉による鉛中毒であつたと解つた今日、鉛白粉は誰れでも恐れるやうになつたのは結構な話。

而し鉛卽ち鹽基性炭酸鉛で製造した白粉はノリもノビも申分ないが、現在の亞鉛華白粉は使用する人に云はせると誠に始末の悪い粉であります。殊に亞鉛と鉛とは常に一緒に産出し、いくら製煉しても容易に此の二つを分離する事が出來ないものですから粗惡な亞鉛華白粉の中には、鉛が含有されて居ます。故に故意に鉛を混合しないでも、鉛を含有して居る白粉は澤山あるわけであります。ことに外國の人は一般に日本人よりも顔に毛が多い事と、子供に母乳を與へる時間も少

い關係上、白粉中の鉛を、日本人程に恐れないから外國製品の中には鉛を故意に入れてある白粉もかなりあります。故に徒らに大きな廣告や外國品に迷はず、信用ある製品を使はねばなりません。大分白粉の悪口を云ひますが而し、白粉の主成分たる亞鉛華には幾分の殺菌力がありますし、紫外線を防ぐ力は中々強いものですから、白粉をつけると云ふ事は日燒けを防ぐ事になります。但し何と云つても金屬の粉末ですから、皮膚は荒れるのが當然です。從つて白粉をつける前には皮膚に化粧水かクリームをつける必要も起つて來るでせう。

元來皮膚の表面にも血管があります。殊に白い人は血管が美しく見えます。之を奇麗に云へば櫻色と云ふのでせうが、情ない事には寫眞に撮ると赤い色は黒くなります。その結果美しい櫻色のレデーのお顔が寫眞では、見るも無慘なまつくろになつて定めしプライドを傷つける事になるでせうから、之は白粉でうまく調子を取らねばなりません。處が普通の白粉ですとハレーションと稱して光線が白粉に反射して、お顔の雜作がぼやけたり、ゆがんだりします。之を未熟な寫眞師が、修整すると、出來損なひのお面のやうになりますから極めて淡化粧か或は肌色白粉を用ひて難を逃れるのです。勿論頬紅などは愼しむべきです。此の事實をよく知つて居ると寫眞上手と云つて寫眞美人になるのです。寫眞から云ふと白は明るく黒は暗い。換言すれば白は高く、黒は低く見える。故に頬骨が出て鼻の低い人は、頬を極めて淡く、鼻を濃く化粧すれば調子が取れて來ます。之と同理で、眼の大きい人、口の大きい人も寫眞だけは白粉と紅の組合せによつて胡麻化せる事は易々たる事でせう。衣服も寫眞の時は黒と赤、白と青の如きは何れも一色に見えるから注意が必要。

此處で一寸書いて置き度いのは着色白粉です。日本人は今でも地方に行くと純白な白粉を用ひますが誠に不自然な顔で化粧美の點から云ふと、如何しても肌色白粉即ち主として淡黄色のもので、人によつて青色其他の極めて淡色を用ひるのがよいやうです。注意するのは頬紅白粉の粗悪なもので、皮膚が荒れるばかりでなく、煉瓦色の汚染が皮膚に殘つて取れなくなる事がありますから、極めて信用ある商品を撰ばねばなりません。

ニキビに次で、婦人の心配の種子は雀斑でせう。昔はオセクサ女房と云つて、雀斑は美人のシンボルの如くに云はれ、

或る種の人は却つて愛嬌を増すとさへ云ひましたが、御本人になつて見れば、こんな物はない方がよいでせう。何とかして取り去り度いと願つてる人が多いから、新聞の廣告なんかに大々的に宣傳してる商品もありますが、元來が、太陽の光線によつて皮膚の色素が小粒子狀に沈着して生じると考へられて居るものですから、太陽が光つて居る以上、雀班を取り去る事は難中の難で、今はまだ藥がないと云ふ方が確かです水銀電燈による紫外線療法の進歩につれ、雀班のついたまゝの皮膚を自然に脫落させる事も可能になりましたが殘念乍ら根治しないやうです。ぢきに以前のやうになるものなら、わざ／＼そんな事をするにも及ばないでありませう。それよりも良質の化粧水を氣永につけて皮膚の營養を充分につけた方が結果がよくはないでせうか。

皮膚の營養劑としては、化粧水の他に、クリームがあります。之はステアリンと云ふ脂肪を一部分だけ苛性加里で石鹼にしたもので、從つて腐敗する事があります。防腐劑が入れてあるのが多いけれど、使用の時は注意しないと却つて惡結果を來します。出來の惡いクリームは、漸次水分が增加したり、固まつたりします。現在の市販品で、之なら完全だと云はれるのは餘りないやうですから、なるべく中性に近い新しい品を用ゐるのが最も安全でありませう。

どうせ書き始めたのなら、もうちつと詳しく書く方がよいでせうが今度は紙面が足りませんし又とても一回や二回では無理ですから今回は不徹底乍ら之で止めませう。

（一九頁より續く）　融寡頭政治の大番頭であるフーバー、そのフーバーの吹く笛にさそはれて踊る者があるとしたら、それはブルジョアジーのスパイとして、無產階級の陣營から放逐さるべき十分の資格を表白する者にすぎない。

いかなる無駄も、浪費も、資本主義の經濟組織そのものほどに大なる無駄であり、浪費であるものはない。戰爭、恐慌失業等最大の無駄と最大の浪費とは、經營上の部分的、技術的失敗から起るものではなくて、資本主義經濟そのもの〻、必然の結果ではないか。この根本的、基礎的な問題をよそにして、生產、分配の上の技術的な問題だけを云々するのは、畢竟無產者を犧牲にして資本主義の生命をひきのばさうとする慣用手段である。無產婦人よ、だまされるな。

婦人雜誌改善の叫び

―新たに生れた委員會―

村山文子

近頃婦人雜誌が、どれもこれも非常に俗惡、卑穢な記事でよむに堪えなくなつたといふので、大分一般の間に問題を起してゐます。

今度東京の婦人たちの間に婦人雜誌改造委員會が出來て、何とか改善のために働いてみやうといふ事になりました。

扨婦人雜誌の改善には、種々の議論があつて、中には

「到底その改善は期待されないものである。むしろ、一日も早くその腐敗の極に達して、ひとりでに崩壞するのこそ望ましい。」

といふ強い意見の方もある位で、その可否はとにかく、誰も彼もが、この問題については頭を惱まして居ながら、どうする事も出來ない有樣なのです。

併したとひ婦人雜誌が實際に流してゐる害毒は手が附けられない程のものであるとしても、現在のそれが惡いからと云つて放つて置く事は出來ません。當然それが自滅するものであるとしても、少しでもその害を受ける範圍や程度を輕減する必要があると思ふのです。その一方に、眞に婦人大衆の要求するものは何であるかといふ事をはつきりと私たちが示すならば、如何なる營利主義の雜誌經營者であつても、自制せざるを得なくなる事と確信致します。

一人殘らずの主婦が、その家庭の机上に、他人に見られたとき、又子供から、

「お母樣これ何のこと?」

と聞かれて、赤い顏をせずと濟むやうな雜誌をのみ備へる樣

になるまで協力して進みたいものであると云ふ切望を以て、今度婦人雑誌改善のために委員會が組織される事になつたのでした。

先づ次の各表を御注意下さい。皆婦人問題研究所の方が、實際に調査されたものです。これを以てみても、如何に現在の婦人雑誌が墮落して居るかと云ふ事が分りませう。私共も今更の様に驚歎すると共に、具體的な問題の提供された事が何よりも嬉しくその御心づくしを感謝しつゝ膝つき合せて懇談協議致しました事は大體次の様です。

婦人雑誌をし眞にその使命を完ふせしめるために、その改善委員會とでも云ふべきものを組織し、婦人雑誌に關するあらゆる調査研究とその結果の發表をすると共に、その弊害を除去する爲に、或は検閲係と聯絡をとつて、婦人として又母及主婦としての意見・注意・要求を提出し、検閲上の參考に供し進んではその監視をします。

一方雑誌の經營者とも話し合つて、いかゞはしい記事や廣告などは斷じて誌上に掲載させないやうに勸告し、なほ反省されない場合には、各婦人團體や特殊雑誌の編輯者とも提携して、廣く徹底的に不買同盟を起す事もあります。又堂々たる一流の大新聞が、到底正視するにしのびないやうな廣告を掲げて、恬として恥ぢない態度にも、烈しい攻撃の矢が向けられました。

この廣告と云ふ事は、實に經濟上の大問題で（一頁の廣告費が隨分多額なのですから）直ちにそれが經營上に影響するのですから、一つでも多くを望むのは無理もないとは云ひながら、無責任な、殊に惡影響を與へるやうなものに對しては委員會として充分に聲を大にして警告を發する事となりました。同時に、教育家として世の師表と仰がれる人々や、醫師――中にも何々醫學博士といふ人達が、輕々しく筆を取る事によつて、その雑誌はかうした教育家なり博士なりを、表看板として、地方の無智な婦人をあざむいて就る事實が多いのです。例へば、某府立高等女學校の校長である人が、或婦人雑誌に執筆した場合に、當の校長その人は、當然その雑誌の含むいかゞはしい記事をも認められたるとなるのではありませんか。といふのは、何も知らない人々は、

「あの方がお書きになる位の本なのだから、大丈夫ですとも」といふ盲目的の信頼を抱くのは當然であつて、その名の及ぼす影響は實に大きいと云はなければならないのです。それで

この人々（文筆生活者ではなくて、新聞や雜誌に執筆する教育家・醫師・社會事業家・宗教家など）に對して、委員會としてもその反省を促がさうと云ふ事になり、その他挿繪などについても、ずゐぶん問題が出て、一しきりその話に花が咲きました。かうして色々意見を述べ合つた末、左の樣に當面の仕事について決定致しました。

1. 委員會はこの日の會合の出席者全部を以て組織し、事務所は婦人問題研究所内におく。
2. 委員會は、毎月一回開き、檢閲係や婦人雜誌の編輯者にも出席して貰つて協議し合ふ。
3. 婦人雜誌の惡いものを攻撃するばかりでなく、良いものを推薦する。
4. 委員が各自一冊づゝの婦人雜誌を分擔して、一定の項目に從つて調査し、それを持ち寄つて前掲の樣な表を作成して、參考資料とする。
5. 宣傳に力を注いで、廣く婦人の輿論を喚起して、婦人雜誌にとつて最も手痛い方法を以てその非を覺らせるやうにする。特に地方に於ける婦人雜誌の弊害について出來る丈け調査する。（これについては、守屋・新妻の兩氏から、興味あるお話がありました。）

婦人雜誌性病關係廣告扱一覽表

（昭和三年一月號—六月號迄）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月
主婦之友	三三	三六	三六	三六	三五	三九
婦女界	六	二	八	九	七	九
婦人世界	二三	二二	二五	三二	二六	二五
婦人俱樂部	一〇			一五	一〇	一六
婦人畫報	〇	二	〇	〇	〇	〇
婦人公論	一		一		〇	〇

まだ／＼仕事は多いのですけれど、出來る丈け着實にその成果を期する爲、あせらずに進む事とし、その第一着手としては、檢閲係との交渉委員守屋・竹内・新妻の三氏におねがひ

する事となりました。そして六月の半すぎには、もつと廣く關係者の出席を求めて第二回の會を開く事となりました。

婦人雜誌中性に關する記事數一覽表

（昭和三年一月號——六月號）

	一月	二月	三月	四月	五月	六月
主婦之友	五	二	五	一八	一〇	一三
婦女界	一	八	二〇	一五	一三	
婦人世界	一八	二〇	二六	二四	一五	一三
婦人倶樂部	六			六	八	一一
婦人畫報	一	一	二	一	二	二
婦人公論	一六		三		八	一八

附記　空欄は手許に雜誌がなくて調査されなかつたものである。
この他にも色々な調査が出來て居るがこゝでは除いた

（九頁より續く）

日では政治も經濟も、全て大資本を擁してゐるものに左右されてゐるといつていゝ。わが國の銅の採掘は今日では二三の大資本家の手に占められてゐるが、銅の輸入關稅を百斤に就いて一圓七十錢であつたものを一躍七圓に改正させて年々七百萬圓の增收を得てゐるのであるが、當初は生產技術の進步を圖るといふ理由で政府を動かして斷行したのであつたにも拘らず、何らさうした努力を試みることなしにその利益を彼等は私してゐる。細民が汗水流して貯えた郵便貯金の行衞はどうか。日露戰爭さへ二十億圓しか使つてゐないといふに平和の內に而も汗と脂の結晶であるところの細民の貯への內の二三十億圓はすでに回收不能の所へ政府の手を經て貸付けられてあり、昨年の銀行恐慌のときには九億七百萬圓といふ大金が二三の大資本家即ち當時破綻しかけた銀行や會社に與へてゐる。これは既に衆人みな知つてゐる事實であるが、この九億七百萬圓の穴埋めがやがて物價騰貴增稅その他の生活難となつて、國民の一人々々の頭にかゝつて來るに違いない事は火を見るよりも明らかなのである。かういふ時代に消費者としての我々の立場を擁護するためには政治の實權を握るより外ない。既に普選の時代でもあり、民衆の要求が強くなつて輿論さへ高くあがれば、たとえ現在なほ無產政黨の勢力が微々としてゐるとしても消費者としての立場から政黨を動かし政治を引ずつてゆく事も決して困難ではない。（文責在記者）

烙印されたる苦艱（五）

（婦人革命家の一生）

ヴェラ・フィグネル手記
大竹せい抄譯

不和

都會に住んでゐた「土地と自由派」の人々と、農村に働いて居たこの團體の人々との間の心持ちが、次第に離れて行つたのは、黨の政策を遂行してゐた中心的なペテルブルグの集團に、意見の不一致があつたためである。個々の團員の鬪爭にたいする見解の相異はつひに衝突にまで導かれて行つた。

その頃諸方で相ついで起つた政治的暗殺事件についての報導は、多くの青年達や社會一般を刺激した。「土地と自由」派のオシンスキーやキエフの團體の手で行はれたキエフ市における憲兵隊長ゲイキング男爵、檢事總長コトリヤレクスキーの暗殺計劃、またハリコフで起つた縣知事暗殺事件、更に、オデッサでおこつたコワリスキー一派の檢擧に際して行はれた武装的反抗、彼等の裁判にたいする示威運動、ペテルブルグ「土地と自由」派の行つた憲兵隊長メゼンツエフの暗殺とその後任者、ドレンテリナの暗殺計劃、それから間もなくハリコフ郊外で行はれた革命家ヴオイナラリスキーを護送の途中から武力を以て解放しやうとした計劃——これらの事實は革命團體の間に非常につよい衝動を與へ、テロルをもつて鬪爭手段とするといふ新しい思潮を勃興させた。當時キエフに居てこの新しい思潮を熱心に稱へてゐたオシンスキーや、ペテルブルグの後の同志ミハイロフ、マローゾフ、クヴヤトコフスキー、バランニコフ、及びアシヤニン等はます〳〵政府との積極的な政治鬪爭によつて、自由を獲得する必要がある

と信じて、新しい革命的行動を起す決意をするに至つた。

これらの人々の心の中では『土地と自由』といふ綱領の二つの方面は、次第に形をかへて行つた。

一八七六年にこの團體が組織された時には、團體の行動の中心は農村で人民の一揆を準備し、その實現は大衆が起つ時をもつてするといふ筈であつた。つまり人民の中にその空氣が成熟したときに、團體はその中心となる、といふのであつた。ところが、一八七八年――七九年にはまづ團體が中心になつて、その空氣をまきおこすといふ風に變つた。つまり、さうした瞬間を作り出すために黨は全力を注がなければならないとしたのである。

ミハイロフ、フヴヤトコフスキーの一派はさう考へてゐたしかし同じペテルブルグ派の中にも、かうした意見に極力反對し、前の古るいプログラムを熱心に擁護した連中がゐた。プレハノフやポポフはこの新思潮に反對して猛烈に鬪爭した

彼等は最初の綱領を支持する理由として、テロルをやる度ごとに團體が非常な壓迫にあふのは實際上革命運動にとつて不利な結果をもたらすものだと說いた。その壓迫の結果無數の好い運動家が捕縛されたり死刑されたりするのは、あまりに大きな犧牲であるとし、政治的テロルが青年に與へる影響はかへつて人民の利益に反する、と指摘した。

この二つの思潮は同じ黨內の大きな論爭問題となつた。

一八七八年の末に私がサラトフの田舍からペテルブルグへ出て來た時には、黨の中央部の間でかうした意見の相違から分裂が起るといふ事は避け難いものとなつてゐた。マローゾフとミハイロフは、私が田舍を捨てゝペテルブルグへ移ることを熱心に說き、農民の間でつゞけて働くことは意義がないと云つた。これに對してプレハノフ派の團體の集會では、ミハイロフ一派のかうし態度に非常に敵意をもつてゐた。

ところが、一八七九年の春になつてサラトフ縣からアレクサンドル・ソロヴイヨフがペテルブルグへやつて來て以來、この論爭は撤底的なものとなつた。

『現在の政治的條件のもとでは、革命家が農村に生活するといふことは何の結果もなかつた』――農村で生活して來た彼の結論は、右の樣なものであつ。『どんな犧牲を拂つてもこの條件を變革しなければならない。何よりも先づアレクサンドル二世の反動政治を打破しなければならない』――さう云ひながら彼は自ら××を暗殺する決意を示した。

しかしそのためには、彼はペテルブルグの同志――「土地と自由」派に援助を求めなければならなかつた。暗殺計劃問題は中央部の議題となつたが、プレハノフ派に通告され、中央部はこれを決行する決意をどんな事があつても替へない、と云つた。しかしこの計劃を提起したソロヴイヨフの名は、プレハノフ派に對して秘密に附せられてゐたほど、彼等にたいする信用は薄らいでゐた。

かうした態度は、プレハノフやポポフの憤慨するところとなつたのは勿論で、ポポフは當時この通告を受取り激怒して叫んだ、「もし君等の間にカラコゾフ（有名なテロリスト）がゐるとしたら、君等の決意を尊重しない新しいコミツサーロフも現はれはしないか？」と。これに對してポポフの親友クヴヤトコフスキーは叫び返へした、「もしお前がそのコミツサーロフになるとしたら、俺はお前を殺すだらう――」と。

嵐のやうな激論もつひに妥協に終つた。つまり、「土地と自由」は、黨としては暗殺計劃に援助を與へることを拒絶することゝなつたが、個々の黨員が個人として必要な援助を與へるのは自由だといふことになつた。

四月二日、暗殺計劃は實行に移されたが失敗に歸した。ソロヴイヨフが發射した大型のピストルは「土地と自由」派の同志が整へて與へたものであつた。この事件のためにピストルを買ひ整へたワイマルは捕縛され、また下手人としてのソロヴイヨフと親交のあつた人々の多數がペテルブルグやサラトフで捕縛されるに至つた。そのためには捕縛を免かれた多くの人々も姿をかくさねばならなかつた。

黨中の黨

ソロヴイヨフの射撃事件があつて後、プレハノフとポポフは團員の大會を召集して、「土地と自由」派が、古るい方針を保持するか或はテロルの政治闘爭を支持するといふ新しい綱領を採用するかを決定しやうとした。

この時、古るい同志達と分裂しても新しい闘爭をつゞけて行かうと決心した人達は、決して少くなかつた。その後おこつた「人民の意志黨實行委員會」の中心はこの當時に結成されたものである。クヴヤトコフスキー、ミハイロフ、マローゾフ、アシヤニン、チホミーロフ、バラバノフ等は「土地と自由」派の内部に、他の黨員等には秘密の間に特別のグループを組織した。このグループは政治的テロルをあくまで必要

とし「勝利か死か」をその標語とした。

その頃すでにキエフに居たオシンスキーは、數名のその地方のテロリストと共に「實行委員會」といふ名稱をつかつてテロルについての檄文を配附してゐた。その例にならつてペテルブルグでもマローゾフが編輯してゐた「土地と自由」派の機關新聞の附錄にはつねに「實行委員會」の名を用ゐた秘密出版物が發行された。

この「實行委員會」を中心にして次第に一つの集團が出來彼等は『土地と自由』派から脫退の準備を着々と進めてゐた。「土地と自由」派の大會が召集されることになり、その「準備委員會」は密かに「實行委員」派を排擊する計劃をたてゝゐた。

大會の場所はヴォロネヂと定まり、時は六月二十四日といふ事になつた。その數日前ヴォロネヂに近い別莊地リペツクでテロル派の連中が準備的集會をした。そこには南露派のテロリスト實行委員會派を合せて十二人集つた。そして古い綱領を改訂する打ち合せをし專政制度を打破し政治的自由を獲得するために、政府との武力鬪爭を必要とするといふ決議をして、これを大會に提議する事となつた。

しかし、大會が開かれるや都會と農村の「土地と自由」派の團員の關係は、ペテルブルグの二つの分派内に起つてゐたやうな激烈な意見の相違がないといふことが分つてきた。そこで大會ではなほ何等古るい綱領を變改するといふ可能性がなくそのまゝ、云はばうやむやの間に殘されてしまつた。

たゞ最初の間プレハノフ派とミハイロフ派の間に激しい論爭が行はれてゐたのを記憶する。郊外の植物園で開かれた集會では、プレハノフはミハイロフ派の態度に憤慨して「僕はこゝには既に何等なすべき事はない！」と云つて立ち去つた私は彼を引き止めやうと驅け出したがミハイロフは私を引きとめて「捨てゝおけ」といつた。プレハノフが去つてから黨はプレハノフを脫退したものと認めたし、プレハノフも自ら自分を「土地と自由」派から去つたものと認めて居たらしいと、いふのは、それ以來私はプレハノフが外國へ去るまで、「土地と自由」派の集會では一度も彼に逢はなかつたから。

全體から見てこの大會は淋しいものであつた。と、いふのはペテルブルグの團員が期待してゐたやうに何等決定的なものを與へなかつたからである。内部に、ともかくも相へだゝつた二つの思潮を持ちながら決定的な分裂をする機會さへも

得なかつた。

　そこで、ヴォロネーヂで私の古い知己マローゾフは最初に逢つた時から、私を自分の秘密團體に引入れやうと熱心に說いてゐた。彼はその秘密團體がすでに「土地と自由」派の內部に存在するといふ事は云はなかつたが、さういふ團體が必要だといふ事を頻りに說いた。しかし私はそれには引入れられなかつた。私はさういふグループが必要だといふ事に反對したばかりでなしに、秘密結社の中に更にも一つの秘密團體をつくるなど、いふ事は全く許すべからざることだと信じてゐた。

「ネチヤエフもやはりさういふ行動をとつたのです」さう言つて私は極秘主義の極端は、且つ不必要な分派的計劃案を撤底的に拒絕した。

「土地と自由」の分裂

　私の非合法生活が始まつたのは、ヴォロネヂ大會があつてから後であつた。私はクヴヤトコフスキーと一緒にペテルブルグに出て、ある一軒の共同住宅に生活してゐた、その家には、ドイツ人の女中一人をおいて私達はすべて心おきなく、公然と同志と往復することができた。

　そこは戰鬪的傾向をもつた「土地と自由」派の集會所ともなつた。私達は何れも變名者ばかりであつた。そこへ集つて來る連中も同樣であつたのは勿論である。私達の集會はいつでも、散步やピクニツクの形で郊外の別莊地や公園で行はれた。

　しかし、それは「土地と自由派」の集會といふよりも、ある志を同じくする小さな集團の集りであつた。こゝでは最初からクヴヤトコフスキー、マローゾフ及びミハイロフ等は、農村で活動してゐる人達がテロルの行動を停頓させてゐるといふことを不滿とした。ヴォロネヂ大會の××暗殺の決議をいそいで實行に移されなければならないと彼等は主張した。といふのは、秋にアレクサンドル二世がクリミヤからペテルブルグに歸ることになつてゐたので、その時期を逸せず準備しなければならないと考へてゐたのである。かくて、この計劃を實行するために、途中數ケ所へ偵察の網を張り、爆彈と人の配置が決定された。

　しかし、彼等の云ふところによると、この時もテロル反對論者は熱心にその實行を妨害してゐる、そのために黨內の力

は内部闘爭に分散し、一致して決然たる行動を執るためにはいろ〳〵な障害が起つた。

テロル派と非テロル派の間にはとう〳〵分裂がよぎなくされた。

そこで、農民の經濟的利益と農業問題に中心をおいたテロル反對論者のプレハノフ、ポポフ、ステパノヴイチその他は新たに「土地改革」派といふ名稱をとり、私達專制政府を轉覆することによつて、人民の自由を實現するといふ意見を持つた連中は「人民の意志」黨を組織することになつた。

つまり、その當時、マローゾフが云つたやうに、今までの「土地と自由」をその行動によつて二つに分裂させたのである。「土地改革」派は「土地」をとり、そして私達は「自由」をとることになり、この二つの分流はめい〳〵その道に向つて進むことになつた。(つゞく)

（七七頁より續く）分自身の自由を求めたと言つて！」

「まあ、だけどあなたにはわからないんだわ。」とマルセルは言つた。「私が間違つた事をしたのよ。私が悪かつたのよ。若し私に私見たいな娘があつたら、やつぱり同じ事をしたでせうよ。」

「君は知ることが出來ないのか？」とフレッドは叫んだ「君のお父さんが自由を求めたのは、男のためであつて女のためぢやないんだ！」

「本來」とマルセルは肩をすくめた。「男と女には相異があるんだわ。私の父は正當だつたんだわ。女つてものは――尊敬されなくちやならないんだわ！」

「女は次の代を作らなくちやならないんだ。」フレッドは悲しさうに溜息を吐いた。

僕はマルセルの手を取つた。

「君は後悔するの？」と僕は彼女に訊いた。

「自分の生涯を後悔するかつて？」彼女は誇りやかに頭をぐいと擡げて直ぐ言ひ返した。「オヤ、決して。私は自由なのよ！」（一九一四年）

革命の娘

シヨンリード作
鎧田研一譯

其の夜は例のパリ式の雨が降つてゐた。それは他の雨のやうに人を濡らすやうには見えなかつた。僕たちは、ロトンド（譯者註、カフェ名）のテラス（譯者註、カフェの屋前で食卓を並べる人道の一部分）で、隅の食卓に向つて腰を下して、デュボンネを啜つてゐた――十一月ではあつたが、暖かい夜だつた――フレツトとマルセルと僕。戰爭のためにカフェはみんなきつちり八時には戸を閉めたが、僕たちは毎晩其の時刻までは留まつた。

僕たちの隣には若いフランス士官がゐた。彼の頭は繃帶され、彼の腕はジヤンスの綠色の肩衣を着た肩に氣持よささうに卷かれてゐた。ベアトリスとアリスとは少し離れて電燈の閃光の下に一緒になつてゐた。後へ向くと窓のカーテンの隙間から、煙に充ちた內側の部屋を見渡すことが出來た――娘たちの間に挾まつて、（食卓）を叩いたり歌つたりしながら騷ぎ立てゝゐる一團の人々、靜かに將棋をさしてゐる二人の考ひたフランス人、女友達の頭を自分の肩にもたせたまゝ、一心に故鄕への手紙を書いてゐる一人の學生、五人の全く見も知らぬ人、それから、戰場から歸つて來た一人の泥だらけの兵士の話に息もせずに耳を傾けてゐる給仕。

黃色な光は僕たちの上に氾濫して、黑く光る鋪石に黃金をはね返した。傘を持つた人々が傍を斷え間も無く流れて行つた。襤褸を着た落ちぶれた老人が僕たちの足もとでこそ〳〵と卷煙草の臺尻を搜してゐた。車道では、のろ〳〵と步いて行く人々の足音が、氣にもならずに僕たちの慣れた耳に聞えてゐた。そして雫の落ちる斜に傾いた銃劍が、向うのモンパルナス遊園街から來る光線を

横切つて過ぎて行つた。

今年はロトンドの娘たちはみんな同じやうな服装をしてゐた。彼女たちは小さな圓帽子をかぶり、髪を短く切り、胸の出た胴衣の上に、足まである長い肩衣を着、其の端はイスパニヤ式に肩の上で搖れてゐた。マルセルが他の者らの典型だつた。それに、彼女の唇は深紅に塗られてゐたし、彼女の頰は死んだやうに白かつた。そして彼女は自分の威嚴を意識してゐない時には淫猥な事を話し、意識してゐる時には感傷的な事を話した。彼女は、これまでも、自分の非常に立派な、非常に尊敬さるべき家族や、自分が一人の公爵から受けた悲劇的な誘惑や、自分の内部の德などの話をして僕たちを歡待したものだ――そして自分は決して世間並の淫賣婦ではないと、誇りやかに言つたものだ。……

此の特別な瞬間に、彼女は、金に對する訴へをもつて彼女の眼の前を過ぎて行つたところのものに就いての、高い香のある註釋の走り火を、聞き難い小聲で混入するのであつた。僕は獨り考へた、僕たちはマルセルの腹の底を見ることが出來たのだと。事物や人々に就いての彼女の註釋は、辛辣で、活氣があつて、獨創的だつたが、暫くすると、味が無くなるのであつた。無鐵砲の緊張や恥づる所無き人生愛も、それより少し長く續くに過ぎなかつた。マルセルはあまりに多く弄ばされて、既に汚辱されてゐるのだ。……

激しい口論が聞えて來た。そして明るいオレンジ色のスエーターを着た背の高い娘が出て來た。其の後に一人の給仕が手眞似をして話したり絶叫したりしながら續いた。

「しかしあなたの注文なすつた八杯のうゐきやう酒の代を是非！」

「私、拂ふつて言つたちやないの？」彼女は肩越しに金切聲で言つた。「私は圓蓋堂へお金を取りに行くのよ」そして彼女は輝く街を横切つて走つた。給仕はポケットの中の釣錢を不機嫌にチリン／＼鳴らせながら、突ツ立つて彼女の後を見やつてゐた。

「待つても駄目よ」とマルホルは叫んだ。「リユ・デランブルの圓蓋堂には別の戸口があるんですもの！」しかし給仕はそれには注意を拂はなかつた。彼は自分で飲み代

を持たされたのだ。そして事實、娘は二度と姿を見せはしなかつた。

「あれは常習のトリックなのよ」とマルセルは僕たちに言つた。「あなたたちでもお金が無い時に給仕に飲まして貰ふのは造作ないのよ。後々までも、支拂ひをしてくれなどゝは敢て言ひませんからね。人間がこんなに少なくてこんなに貧乏な戰爭時分には、現在つてものを知るのが一番善いのよ。」……

「しかしあの給仕は！」とフレッドは反駁した。「あの人間だつて生活の糧を作らなけりやならないんだ！」

マルセルは肩をすぼめた。「そして私たちは私たちのをね。」と彼女は言つた。

「屯營のあたりにいつも一人の美人がゐたものよ。」と彼女は一分ほど經つて續けた。「マリイつて言つてゐましたがね。髮が美しくつて――そりやあすてきだつたわよ――――そして旅をするのが好きでね……一度、一厘も無しに、エヂプト通ひの地中海の船に乘り込んだことがあるの――着のみ着のまゝでね。其の女が欄干に凭れてゐると、一人のフランス人が通りかゝつて、かう言つたのよ「あなたの髮はすてきですね、お孃さん」つて。「『あなたに百フランクで賣りませう。』と其の女は直ぐ言ひ返したの。それで其の女は自分の美しい髮をすつかり切り棄てゝ、カイロへ行つたの。其處でイギリスの貴族に會つたの。」……

給仕は大きな溜息を吐いて、悲しさうに頭を振つて、中へ這入つた。僕たちは默つて御馳走のことを考へてゐた。雨が降つて來た。

僕はそれがどうして起つたのか知らないが、フレッドは虚心にカルマニオール（譯者註、フランス革命時代に共和黨が用ひた踊り歌）を口笛で歌ひ出した。僕はそれに調子を合せる聲が聞えて來なかつたら、それに注意するのではなかつたらう。僕があたりを見廻すと、ジヤンヌの肩からだらりと腕をぶら下げた例の負傷したフランス士官が、鋪石の向うをぼんやりと見つめて、カルマニオールを口ごもつてゐるのが眼に附いた。祖國の軍隊の制服を着た此の神經質の顏つきをした靑年は、謀叛の歌を歌ひながら、どんな幻を見てゐるのだらう！　僕が眼を附けてさへ、彼は途中で歌をやめて、意識に返つて驚いた

やうな顔つきをした。そして一緒にジャンヌを引ツ張つて急に立ち上つた。

　それと同じ瞬間に、マルセルはフレッドの腕を荒々しく引ツ捉へた。

「それは禁じられてゐるのよ――そんなものを歌ふと私たちはみんな檢束されちまつてよ！」彼女は、僕が興味を感じた、彼女の眼にあらはれた恐怖よりも非常に力强い何ものかをもつて叫んだ。「それに、そんな厭らしい歌を歌はないで頂戴な。それは革命歌よ――それを歌ふのはやくざ者よ――貧乏な人たちよ――襤褸を着た人たちよ――」

「それぢや君自身は革命家ではないのかい？」と僕は訊いた。

「私？　えゝ、ないの、誓つてね！」彼女は情熱的に頭を振つた。何も彼も轉覆させたがるのは、商賣人よ、惡黨よ！」マルセルはぶる〳〵震へた。

「ねえ、マルセル！　君は此の世で幸福なのかい、今のまゝのやり方ですね？　それは君を追ひやつて街路で自分を賣らせる以外に、何の役に立つのだ？」フレッドは今は煮えくり返るやうな宣傳の氾濫の上に身を浮べた。「赤い日がやつて來ると、防塞のどの方面に就くべきかを僕は知つてるのだ――」

　マルゼルは笑ひ出した。それは痛烈な笑ひだつた。僕が、彼女が自意識を失つたのを見たのはこれが初めてだつたのだ。

「おしやべり、あんた」と彼女は亂暴に遮つた。「私だつてそんな話は知つてるわよ！　私はあの時以來それを聞かされて來たの、私があの高い……私は知つてるわよ」彼女は言葉を切つて、獨りで笑つて、それを無理に抑へて續けた。「私のお祖父さんは、コンミユンで赤旗を持つてゐたと言つて、ペル・ラシエーズで壁を後にして銃殺されたのよ。」彼女ははつとして、恥しさうに僕たちを眺めて、ニヤ〳〵と笑つた。「ほら、ね、私は値打も無い家筋から出たのよ。」……

「君のお祖父さん！」とフレッドは叫んだ。

「私のお祖父さんで通つてゐるのよ！」とマルセルは冷淡に言つた。「あの氣の狂つた、穢い手をした老ひぼれの馬鹿者は墓の中に息ませて置いて頂戴！　私は今までであ

の人のことを話したことは無いのよ。これからもあの人の魂のために、蠟燭を點してやることなんか無いでせうよ。」……

フレッドは彼女の手を捉へた。彼は興奮したのだ。「神の祝福が君のお祖父さんの上にあるやうに！」

自分の告白の機微な氣轉に依つて、彼女は、何か神秘な理由のために自分は滿足したと推測したのだ。

返事の代りに、彼女は低い聲でインターナショナルの最後の行を歌ひ始めた。

「それは終局の鬪ひぞ――」彼女はフレッドとふざけた。

「君のお祖父さんのことをもつと話してくれないか？」と僕は訊いた。

「もう話す事は無いわよ」マルセルは半ば恥ぢ、半ばは喜んで、全く皮肉的に言つた。「あの人は全く何んの者ともわからない野人だつたの。父親も無ければ母親も無かつたの。石工だつたのですがなか〳〵腕のいゝ職人だつたと云ふ話よだけど本ばかり讀んでゐて、いつもストライキをやつてゐたのよ。野蠻人でいつも吼えてばかりゐたの、「政府と金滿家を倒せ！」つてね。人々はあの人を「ル・ファルー」つて呼んだの。私は憶えてるわ、兵隊がやつて來て、銃殺するためにあの人を家から連れて行つた時の様子を私の父が話してくれたことをね。其の時私の父は十四になつたばかりの小供だつたのですが、寢床の蒲團の下にお祖父さんを匿してやつたの。だけど兵隊は其の中に銃劍を突きつけて、其の一つがお祖父さんの肩を貫いたの――それで血が流れたの。其の時お祖父さんは兵隊に演說をしたの――あの人はいつだつて演說ばかりしてゐたのよ――そしてコンミユンを殺害しないでくれつて賴んだの。……だけど兵隊は笑つただけだつたの――」そしてマルセルも笑つた。面白かつたからだ。

「だけど私の父は――」と彼女は續けた。「あゝ！　あの人はもつと惡かつたのよ。私は思ひ出すことが出來るわクルーソー工場の大ストライキをね――ちよつと待つて頂戴――それはあの大博覽會の年だつたのよ。私の父は其のストライキを援助したの。私の兄は其の時にはまだほんの赤ン坊ですね――八歲になつてゐたの。そして貧乏な子供の常としてもう勞働してゐたの。同盟罷業者が

みんなで行進してゐると、ふと私の父は向うの列から自分に叫びかける小さな聲をきつけたの――それが私の小さな兄で、同志の一人見たいに赤旗を持つて行進してるのよ！

「『やあ、お父さん！』つて弟は父に呼びかけたの。『うまく行くよ！』

『其のストライキでは、澤山の勞働者が、銃殺されたのよ。』マルセルは惡意に充ちて頭を振つた。『オー！ あの屑！』

フレッドと僕は感動した。そして一つ場所にぢつとしてゐるために寒氣がして來たのを知つた。僕たちは窓を叩いてコニヤツクを注文した。

『これであなたたちは私の慘めた家族のことを十分にお聞きになつたわけよ。』とマルセルは侮蔑の心をもつて言つた。

『次へ進んでくれ！』とフレッドはきら／＼光る眼をして嗄聲で言つた。

『だけどあなたたちは私を御馳走に連れて行つて下さるのぢやないの？』とマルセルはうまく取り入つた。僕は頷いた。『畜生！』彼女はニヤ／＼笑つて續けた。『私の父がやかましく騒ぎ立てたのはこれとは違ふのよ――私の父が！ お祖父さんが死んでからは、父は仕事を見附けることが出來なくなつたの。父は餓死しかけて、家から家へと食を乞うて歩いたの。だけどみんなは父を見ると扉を閉めてしまふのよ。私のお祖父さんの同志の中の女なんかはこんなに言ふの『何もやつてはいけないよ、あのむさくるしい奴に。あいつは銃殺されたル・フアルーの子なんだつてね。それで私の父は犬のやうにカフエの食卓のぐるりをこそ／＼と漁り廻つて、パン屑を拾つては身と魂を保つて行つたの。それは私に澤山の教訓を與へたわ。』マルセルは短い髮をゆすりながら言つた。『自分に食べさしてくれる者とはいつも善い關係を保つものよそれがつまり私が、あの娘がしたやうに給仕から盗みをしない理由なの。そして私は誰にも彼にも言つてやるの私の家族は尊敬を受けてもいゝつてね。みんなは私の父の罪のために私を苦しめることも出來るんですからね、私の父がお祖父さんの罪のために同じ事をしたやうに。』

光が我々の上に忽然と現はれた。そしてもう一度人類

の解し難い下賤と云ふものが是認された。此處に、マルセルを知る、彼女の弱さ、彼女の卑しさを知る鍵があるのだ。彼女を歪めたのは不德そのものではなくて、地上の主人どもが人間精神に加へた堪え難い墮落、自由を渇き求める者らに對する恐るべき刑罰なのだ。

「私は思ひ出すことが出來るわ、」と彼女は言つた。「クルーソーのストライキが終つてから、指導者たちが面倒な勞働者から逃れて行つた樣子をね。それは冬で、何週間も私たちには、私の母がみんなを暖めるために野原で集めた薪があるだけだつたの——それと、シンヂケートが私たちにくれた少しばかりのパンとコーヒーとがね。私はまだ四つにもなつてゐなかつたの。私の父はパリへ行くことにきめたので、私たちは出發したの——歩いてね父は私を一方の肩におんぶして行つたの。そしてもう一方の肩には一束ねの衣類を負つてね。母はもう一人の子をおんぶして——だけど母はもう結核になつてゐたので一時間毎に休まなければならなかつたの。私の兄は後から隨いて來たの。……私たちは、ポプラの裸木の間の、薄く雪の積つた、白い、眞ツ直ぐな道を歩いて行きました。二日と一晩ね。……夜になると、私たちは人氣の無い道路工夫の小屋へ押し合ふやうに這入つたの。母はひどく咳をしてね。それから、みんなは太陽が昇らない先にまた出發しして、雪の中を歩いて行つたの。私の父と兄は革命の叫びを上げて、歌つたものよ。

「踊らう、カルマニオールを
とゞろき萬歲——とゞろき萬歲——
踊らう、カルマニオールを
太砲のとゞろき萬歲！」

つてね。」

マルセルは此の禁じられた歌を歌つた際、無意識に聲を上げたものだ。彼女の頰は赤らみ、彼女の眼からは火花が出、彼女は是を踏み鳴らした。ふと彼女はそれを止めて、恐々とあたりを見廻した。しかし誰も注意してゐる者は無かつた。

「私の兄は女の子見たいに高い細い聲を持つてゐたのよ私の父は、年の行つた同盟罷業者見たいに憎惡の歌を吼えたけりながら自分の側でしつかりと足踏みしてゐる兄を見下すと、笑ふのを中止したものよ。

『行つてしまへ！　小ごろつき――此の小ごろつきめ！きつと警察がいつかお前を知らうぜ！』――そして父は兄の脊をぴしやりと平手で打つたものよ。それは母を眞ツ蒼にさせたの。そして時には夜中に母は自分の寢床からそつと抜け出して、兄の眠つてゐる隅の方へ行つて、兄をゆり起して泣きながら言つて聞かせたものよ。お前は大きくなつたら善人にならにやならないよ、つてね。一度父が起き上つて、母がさうしてゐるところを見附けちまつたの。……だけどそれはもつと後の事で、パリにゐた時だつたの。……

『それから父と兄は歌つたものよ。

起てや、慘めな兄弟たち！
もはや國境を我らは要せず
ブルジョアジーを掠奪し、
惡虐を征服せんには、
我らは持つべし、心と力を！』

つてね。

『それから父は軍隊のやうに進んで行きながらきら／＼閃く眼をして、前の方を見やるの。父の眼がそんな風に閃く度に、母は戰き慄へたものよ――何故つて、それは警察との何か向う見ずの恐ろしい戰ひだとか、血なまぐさいストライキだとかを意味したんですからね。そして母が恐れたのは父のためだつたの。……そして私は知つてるのよ、母がどんな風に感じたに違ひないかをね。と云ふのは、母は私のやうに法律に從つてゐたんですからね私の父はと云へば、碌な事はしなかつたの。』マルセルは震へ上つて、一飲みにユニヤツクを呷つた。

『私が自分で物事を知り始めたのは、パリへ來てからだつたの。』と彼女は續けた『と云ふのは、其の時になつて私は成人し出したんですからね。私の最初の記憶は、大かた、私の父がテイリオンの所で、あのメーヌ大通りにある石炭置場で、大きなストライキの指導をやつて、巡査に打たれて腕を折つて歸宅した時なの。それからは、働いてはストライキ――働いてはストライキで――私たちの家には食べる物とては殆んど無く、母は一層弱り込んで、とう／＼死んぢまつたの。私の父は再婚したの。或る宗教的な女とね。其の女は最彼には續けざまに教會へ行くやうにとお祈り

をしたものよ……何故つて、其の女は父がどんなに激しく神を憎んでゐるかを知つてゐましたからね。

「父は、毎週組合の會合の後では夜遲く歸つて來たものよ。眼を星のやうに輝かせ、街中で、吼えるやうに冒瀆の言葉を發しながらね。父は恐ろしい人間だつたのよ。いつも指導者だつたのよ。私は憶えてるわ、父がモンマルトルの示威行列を援助しに出かけて行つた時のことをね。それは、パリ全體を見下してゐる、サクレ・クールと云ふ山頂の大きな白い教會の前でだつたの。丁度其の下にあるパールの騎士の像を御存じでせう？ それは宗教上の行列に敬禮するのを拒絕した昔の青年の像でね、或る司祭が自分の携へてゐる十字架で其の青年の腕を折つちやつたの。そして青年は異端糺問所の手で燒き殺されたの彼は鎖に繋がれて、折れた腕を脇腹にだらりとぶら下げて、頭をあんなに上げて、あそこに立つてるのよ――あんなに誇りやかにね。それはいゝとして、勞働者たちが示威行列をしたのは教會か何かに對してだつたの――何に對してだつたか私は知りませんけれどね。彼等は演說をしたの。私の父は會堂の上り段の上に立つてゐたの。其の時不意に教會の主任司祭が出て來たの。私の父は雷のやうな聲で叫んだの「司祭どもを倒せ！ あの豚があの青年を燒き殺したのだ！」つてね。父は像を指さしたの。「あいつを絞刑にしろ！ あいつを絞め殺せ！」そこでみんなは叫び立てゝ上り段の方へ押し寄せて行つたの――それで警察が其の群集を叛逆者として告發しちやつたの……えゝ、私の父は其の夜血だらけになつて、街中やつと身を曳きずるやうにして歸つて來たのよ。

「私の繼母は戶口まで父を迎へて、大變怒つて言つたの「さあ、今まで何處へ行つてたの、此のやくざ者？」つてね。

「『宣言をしてたんだ、何でえ！』と父は唸つたの。

「『いゝ氣味だ。』と繼母は言つたの。『直ぐ癒ればいゝが。』

「『癒れば？』父は齒が拔けて血だらけになつた口で吼えながら叫んだの。『次の時までには癒るさ！ うまく行くわい！』

「そして全く本當に、ルプーフが斷頭臺で首斬られた時に、胸甲騎兵どもが社會主義者を告發したの。そして私

の父は頭をサーベルで斬られて家へ運ばれて來たの。」
マルセルは口に巻煙草を咥へて、それにフレッドのから點火するために身を屈めた。
「みんなは私の父を「棍棒」のボアッソオ――「頭を割る者」――と呼んだものよ――そして父は頑固な人間だつたの……父はどんなに政府を憎んだことでせう！……一度私が學校から歸つて、マルセール（譯者註、フランスの國歌）を歌ふやうに教へられたことを父に告げたの。
「『若し俺が、お前があの呪はれた謀叛人の歌を此のあたりで歌つてゐるのを見附けでもしたら、』父は拳骨を握りしめながら私に向つて叫んだの。『頬を引き裂いてやるぞ！』」
僕は、此の粗野な、窮乏し、老戰士が、警察との無數の無駄な卑劣な戰ひの痕を留めて、組合の集會の後でむさくるしい街をよろめき歸りながら、更生した人類の幻で頭腦を燃え立たせてゐる所を心に描いた。
「そして君の兄さんは？」とフレッドは訊いた。
「まあ、兄は私の父よりも惡かつたのよ。」とマルセルは笑ひながら言つた。「私の父には大抵の事を話すことが出來たんですけれど、兄にはちつとも話すことが出來ない事柄があつたの。子供の時でさへ、兄は恐ろしい振舞ひをしたの。兄はいつも言つたものよ、「學校が退けたら、これ〳〵の教會へ會ひに來てくれ――僕は、祈りたいんだ」つてね。私はいつも上り段で兄に會つたの。そして二人は中へ這入つて跪いたの。私が祈つてゐると、兄は不意に飛び立つて、喚きながら教會の中を走り廻つて、椅子を蹴り飛ばすやら、禮拜室の中で燃えてゐる蠟燭を打ち壞すやらするの。……そしていつでも街の中で牧師を見附けると、つか〳〵と其の後へ進んで行つて怒鳴りつけるの、「其の球帽を脱げ！　其の球帽を脱げ！」つてね。二十遍も兄は拘引されて、懲治院へ入れられたことさへあるの。だけどいつも逃げて來たの。十五になつたばかりの時、兄は家出をして、一年の間歸つて來なかつたの。或る日、兄がのそりと臺所へ這入つて來たの。私たちにみんなで朝食を取つてゐるところだつたの。
「『お早う！』と兄は家出なんかしたことが無いと云ふやうな調子で言ふの。『寒い朝ぢやありませんか？』
「私の繼母は金切聲を上げました。」

「『僕は世の中を見に行つてたんですよ。』と兄は續けて言ふの。『僕が歸つて來たのは、金がちつとも無くなつて飢えて來たからです。』私の父は決して兄を叱らないで、また家にゐさせたの。晝間は兄は場末のカフエーをうろつき廻つて、眞夜中過ぎにならないと歸つて來やしないの。すると或る朝兄はまた消えてしまつたの、誰にも一言も言はないでね。三ケ月たつと、また飢えて歸つて來たの。私の繼母は父に言つたものよ、子供でも働かすのがあたりまへだ、法律に從はない怠け者に食べさせてやるのは容易な事ちやない、つてね。だけど父は笑つただけなの。

『ほつとけ！』と父は言ふの。『自分がどんな事をしてゐるか、あいつにもわかつてるさ。あいつには善い戰ひの血が流れてるんだ。』

「私の兄は、殆んど十八になるまでは、そんな風に出たり歸つたりしてばかりゐたの。最後の時期には、パリへ移つて來る前に、殆んど始終働いて、とう／＼、立ち去るに足るだけのお金を溜めたの。それから、お終ひにはこちらの工場でしつかりした仕事にありついて、結婚までしたの。……

「兄はいゝ歌聲を持つてゐて、革命歌を歌つては人々を啞然とさせたものよ。夜分、仕事が終つてからは、いつも頸に赤い大きなハンカチを卷きつけて、何處かの音樂堂か居酒屋へ出かけて行つたものよ。兄はいつも中へ這入つて行くの、そして、誰か歌ひ手がステージから何かの歌を歌つてる最中に、不意に聲を張り上げて、サイラ（譯者註、一七八九年に流行したフランス革命歌）かインターナショナルかを歌ひ出すの。ステージの上の歌ひ手は餘儀なく歌ひやめる、聽衆はみんな振り向いて、劇場の上部のベンチにゐる私の兄を見張る、と云つたやうな騷ぎなの。

「歌ひやめると、兄は叫んで言つたものよ、『どうして諸君はあんなのが好きなんだ？』つてね。するとみんなは喜んで喝采するの。そこで兄は大聲で叫ぶの、『誰も彼も僕と一緒に言へ、『資本家を倒せ！ ××を倒せ！ ××を絞刑にしろ！』と。』するとどれだけかの歡呼とどれだけかの口笛とが放たれるの。『誰かゞ僕に向つて口笛を鳴らしたね？』と兄は叫ぶの。『僕は誰にでも外の戸口で會

はう、敢て僕に向つて口笛を鳴らした者には！」そして やがて兄は街路で狂暴なモッブに取り巻かれて、十人、十五 の人たちと戰ふの。巡査が來るまではね。……

「兄も始終ストライキの指導をやつてゐたものよ。だけどおかしいほどの立派な態度を持つてゐたので、同志はみんな兄を愛したの。……多分いつかは代議士ぐらゐにはなつたでせうよ、私の父が兄の幼い時分に法律に從はないと云ふことを敎へなかつたらね――」

「今は何處にゐるの？」とフレッドは訊いた。

「塹壕へ行つてるの。」彼女は手で漠然と東方を指した。「戰争が始まると、直ぐ他の者と一緒に出征しなければならなくなつたの、あんなに軍隊を憎んでたのにね。兄が軍務に就いた時には、それは恐ろしかつたわよ。決して服從しようとしないんですもの。それで殆んど一年の間、監獄に入れられちやつたの。一度、昇進させられることにきまつて、一ケ月のうちに伍長にされたの、兄はそれほど聰明だつたのよ。……だけどそも〳〵最初の日に自分の小隊の兵卒に命令を與へるのを拒絶したの……「何故僕はこれ等の同志に命令をしなけりやならないのか？」つて兄は怒號したの。「塹壕を掘るやうに彼等に命令しろなんて俺に命じやあがる。さあ、彼等は奴隷なのか？」それで兄はまた兵卒の身分に落されたの。それで兄は叛亂を起して、彼等に××××するやうに忠告したの。……あの人たちはそんなに輕蔑されたので、兄を壁にぶツつけちやつたの。さうまで恐ろしく兄は戰爭を憎んだのよ！　三年兵役法が議院に上程された時に、モッブをブウルボン宮殿に引き連れて行つたのも兄だつたの。……そして今はドイツ野郎を殺しに行かなけれりやならないの、ほかの者と同じやうにね。多分自分も殺されたでせうよ。私は知らないけれど――何も聞いたことはありませんけれど。」それから急に方向を變へて、「兄には五歳になる男の子があつたのよ。」

ぼんやりした自由の夢のために根氣よく爭鬪して來た猛烈な、自由な血の三代！　そして今四代目は搖籃の中にゐるのだ！　彼等は、何故自分が爭鬪したかを知つてゐたのか？　知つてゐなかつたにしても構ひはしない。それは理性よりも一層深い物だつたのだ。暴力も議論も決して根絶することの出來ない人間精神の本能だつたの

だ。

「それで君は、マルセル！」と僕は訊いた。

「私？」と彼女は笑つた。「公爵なんかに誘惑されなかつたわけを話しませうか？」彼女は痛烈な偸み笑ひを少し洩らした。「そしたらあなたたちは私を尊敬なさらないでせう――あなたたちのやうな路傍のお友達はロマンスで味づけられた娛樂をお求めになるつてことを私は知つてゐますからね。だけどそれは本當なの。ロマンチツクぢやなかつたの。私たちの生活のあゝ云ふ恐ろしさと本氣さとの中で、私はいつも悅びと幸福とを求めてゐたの。私はいつも笑ひたがり、陽氣になりたがつてゐたの、私が赤ン坊だつた時にさへね。私はいつもシヤンペンを飲んだり、芝居へ行つたりすることを想像したの。そして寶石や、立派な着物や、自動車を欲しがつたの。大變早くから、私の父は、私の趣味がそんな方へ行つてることを注意してゐたの。それで父は言つたものよ。「お前が何も彼も投げ棄てゝ金持の野郎に身を賣りたがつてることは、俺にはわかつてるんだ。お前は今最初の過ちを犯したんだから、家からおツぽり出して、もう俺の娘などゝ言つてはやならいぞ」つてね。

「私には家にゐるのがたまらなくなつて來たの。私の父は、結婚しないで戀人を持つてる女などは赦さなかつたの。お前は罪を犯す途中にゐる、などゝ父は言つてばかりゐたの。私がもつと年を取つてからは、繼母とでなければ外出するのを許さなくなつたの。私がすつかり年頃になると、父は私を救つてやるんだと言つて、聟捜しにやきもきし出したの。或る日、父は歸つて來て、一人見附けたつて言ふのよ――誰かと思ふと、跛足を引く蒼ざめた青年で、同じ街に住んでゐる料理屋の番人の息子なの。私は其の青年を知つてゐたんです。惡い人間ではなかつたけれど、結婚なんか思ひも寄らなかつたの。それで私は自由になりたくなつたの。」

僕たちははツとした、フレツドと僕とは「自由に！」それはあの老人が斯くまで烈しく其のために戰つたところのものではないか？

「それで其の夜」と彼女は續けた。「私はそつと寢床から出て、晴衣を着て、其の上に不斷衣を着て、家出をしたの。夜通し私は街を歩き廻つた。そして翌日もね。其の

既、私は慄へながら、兄の働いてゐる工場へ行つて、兄が出て來るのを待ち受けたの。兄は私を父に渡すかどうか、私にはわからなかつたの。だけど直ぐ出て來ました幾人かの同志と喚いたり歌つたりしながらね。そして私を見附けた。——

「うん、お前何を持つて來てくれたんだい？」兄は私の腕を取つて叫んだの。「困つてる？」私は自分が家出したことを話したの。兄は突ツ立つたまゝで私を見るの。「食べてゐないんだね。」つて兄は言ふの。「僕と一緒に歸つて僕の女房にお會ひ。お前はあいつを好くだらうよ。みんなで一緒に御馳走を食べようよ。」それで私はさうしたの兄の妻はすてきだつたわよ。心から私を迎へて、二人で赤ン坊を見せたものよ、丁度一ケ月になる……そして大變太つてゐてね！ 其の家の中では何も彼も溫かで幸福だつたわ。私は憶えてゐますが、兄の妻が自分で御馳走を料理してくれたの。私はそんな御馳走を食べたことが無かつたわよ！ 私が食べ終るまで、二人は何も訊かなかつたの。それから兄は卷煙草に火をつけて、私にも一本くれたの。私は煙草を吹かすのが恐かつたの。煙草を吸ふ女は地獄へ行くつて繼母が言つてたものですからね……だけど兄の妻は私を見て微笑んで、自分でも一本手にしたの。

「ところで！」と私の兄は口を切つたの。「お前の計劃はどうなんだい？」

「何の計劃も無いの。」と私は答へました。「私は自由にならにやならいの。陽氣さや、綺麗な着物が欲しいの。芝居へ行きたいの。シャンペンが欲みたいの。」

兄の妻は悲しさうに頭を振りました。

「そんな物を手に入れさせる女の仕事なんて、私は聞いたことが無いわ。」と彼女は言ふの。

「私が働きたがつてゐると、あなたは、お思ひになつて？」と私は破裂しちやつたの。「私が一週十フランクで一生涯工場の奴隷になるとは、平和街の誰か女裁縫師の所で、ほかの女の長上衣に包まれて氣取つて歩き廻るとかしたがつてゐるとお思ひになつて？ 私がどんな人からでも命令を受けるとお思ひになつて？ いゝえ、私は自由になりたいの！」

「私の兄は長い間重々しく私を見てゐました。それから

から言ふの。「僕たちには同じ血が流れてるんだ。お前と議論したつて、お前を強ひたつて、何の益にもなりやしないだらう。人間つてものはそれ〳〵自分の生活を作らなくちやならないんだ。お前は自分の好きな事をするがいゝ。しかしこれだけは知つて置いて貰ひたいんだ、いつでもお前が飢ゑるとか、落膽するとか、見棄てられるとかした時には、俺の家がお前を歡迎してるつてことをね——お前が生きてる限り、此の家はいつもお前を歡迎してるつてことをね。」」……

マルセルは手の甲で荒々しく涙を拭いた。

「其の夜私はそこに泊つたの。そして翌日市を歩き廻つてカフエの娘たちと話して見たの——今の私のやうな娘たちとね。若ししつかりした戀人が欲しければ働けつて彼女たちは忠告するの。それで私は一月の間大きなデパートメン・ストーアへ這入つてゐたの。すると戀人が出來たの。アルゼンチンの人でね、美しい着物をくれたり芝居へ連れて行つてくれたりしたの。私、あんなに幸福なことはなかつたわ！

「或る夜、二人が芝居へ行つてゐる途中、私の兄の家のわきを通つたので、私は中へ這入つて自分がどんなにすてきな生活を見附けたかを知らしてやらうと思つたの。私は靑いシヤルマーズの長上衣を着てゐたの——今でも憶えてゐますが、それは美しかつたわよ！　非常に踵の高い上靴と、締め金についてゐるブリリアント形のダイヤと、白手袋と、黑い駝鳥の羽のついた大きな帽子と、面紗。運よく其の面紗は下されてゐたの。と云ふのは、私が兄の住家の戸口を這入ると、私の父が上り段の上に立つてゐるんですもの！　父は私を見ました。私は立ち止つたの。私の心臟は止つてしまつたの。だけど私は知ることが出來たわ。父が私を認めないでゐることをね。

「「出て失せろ！」と父は喚くの。「手前見たいな人間がこんな勞働者の家に何の用事があるんだ？　こんな所へ來やあがつて、工場で働いてる貧乏人や、肺病女房や、死にかけた子供から絞り取つた、そんな絹物や羽で俺たちを侮辱しやあがつて、どうしようつてんだい？　出て失せろ、此の賣女め！」」

「私だと云ふことがわかりはしないかと思つて、私はぞツとしたわ！」

「私が父を見たのは、其の後たゞ一度だけなの。私の戀人は私を棄てちやつたので、私は次々に別の戀人を持つたの。……私の兄夫婦は、サン・デニにゐる父の近所で暮すために引き越しをしたの。私は時には出かけて行つて、兄夫婦と夜を過ごして、赤ン坊と遊んだものよ。赤ン坊は見る見るうちに大きくなりました。その時分は本當に幸福だつたわ。父に會ふのを避けるために、私はいつも夜明けに歸つて來たものよ。或る朝、通りへ出て來ると、辨當桶を提げて夜明けの仕事に行つてる父を見つけたの。父は私の顔を見てゐなかつたの。父の先に立つて街を歩いて行くよりほかに何とも仕様が無かつたの。まだ五時頃でね――あたりには人が少なかつたの。父は私の後をやつて來る。そして私は直ぐ氣が附いたの、父が前よりも早く歩いてるつてことをね。すると父は低い聲で言ふの、「お孃さん、待つて下さい。二人は同じ方へ行つてるんでせう、え〻？」つてね。私は急いだの、「あんたは綺麗だ、お孃さん。私もまだ老人ぢやありませんよ。何處かへ一緒に行くことは出來ねえんですかい？」私はあわてたの。自分の顔を見られはしないかと言ふ恐怖と心配で胸が一杯なの！　脇道へそれるわけにも行かないの。横顔を見られてしまひますからね。それで私は前へ眞ツ直ぐに歩いたの――何時間も、何哩も、前へ眞ツ直ぐにね。……父がいつ立ち止つたか、私にはわからないの。……今は死んだかどうか、それも私にはわからないの。……兄に訊くと、私のことは決して言はなかつたつて言ひます。」……

彼女は話し終つた。今まで長い間氣が附かないでゐた街の騒ぎは、前よりも二重のやかましさをもつて、再び僕たちの耳に這入り出して來た。フレッドは興奮した。

「驚くべきだ、ほんとに！」と彼は食卓をしたゝか打ちながら言つた。「同じ血に、同じ精神！　そして代が代るに連れて、革命は段々快く、段々大きくなつて來るんだ！　兄は親父にはわからなかつた方法で自由つてものを理解したんだ！」

マルセルは驚いたやうな顔を急に彼の方へ向けた。「それはどう云ふ意味なの？」と彼女は訊いた。

「君のお父さんは、――自由のために一生涯戰ひながら――然も君を逐ひ出したんだ、君が自

（六〇頁へ續く）

編輯室にて

今月も雜誌の出來上りが、とう〳〵おくれてしまつた。

「婦人運動」の編輯室にて云つてゐる約束は一向信賴出來ぬでないですか、と、屢々私たちはあちこちで皮肉られるので、ガッカリしてしまふ。來月からこそと、改めてこゝに宣誓したいのであるけれど、まあ、實行に如かず、と、今、大急ぎで七月號の準備も進めてゐます。

ほんとうに每月〳〵おくれて、申しわけがありません。月からこそきつとこの申譯けは立てゝみせますが。

いはゆる婦人雜誌が卑俗すぎる、といふので、改善の叫びがあちこちに火の手をあげてゐます。御同樣、まことに共鳴に堪えぬ次第であります。

たゞ、婦人雜誌改善の實行方法としては、消極的方法としては、女が同盟してさういふものを買はないこと、積極的方法としてはいゝ雜誌を女同志の力で作りあげること。その外にはありません。

從つて、婦人ばかりの手に依つて六年越し婦人問題のために、闘ひつゞけて來た本誌のやうな雜誌を、此際特に、婦人全體が支持して守り育てるといふことは、何よりも大きな無言の婦人雜誌改善運動だと信じます。

どうぞ、廣く日本全體の婦人がこの運動に參加して下さる樣、あなたの御友人に本誌をおすゝめ下さい。

一人でも本誌の讀者が殖えます樣、お加勢下さい。

婦人消費組合協會の門出は、一般の家庭婦人に强いショックを與へたやうです。家庭にだけとぢこもつて、一人の夫、一軒の家の良妻となり、良主婦となつてゐるだけでも、婦人としては、結構忙しく心使ひの多い一日々々が暮れてしまふものでありますが、今日の社會的事情は、それだけではすまなくなつて來てゐるのです。社會が婦人に對して要求するものも大きく、婦人自身がイヤ應なしに社會のことにまで心を配らないでは、落してゆけない事も決して尠くありません。

つまり、今日では婦人の生活と社會とを沒交渉にしておくことが、許されなくなつてゐるのであります。どうぞ社會の出來事百般の

職業婦人茶話會

六月三十日（土）後正六時より

於麴町區有樂町驛ガード下新しい村會場二階

講　演＝各國の職業婦人保護法　北岡壽逸氏

活動寫眞＝職業に働く婦人たち

茶　話　會

職業婦人の茶話會を開きます。どなたもお出かけ下さい。

一年々々と私たちのやうな、職業婦人の數は殖えるばかりですのに、國家としても社會としても、何ら、職業婦人を保護するために動かうとさへしてくれません。而も、職業婦人同志は、丈まるで路傍の人のやうに路ですれ合うても、電車の中で隣り合つても目禮さへ交はさずに、お互ひに白眼視し合うてゐます。これで職業婦人の地位が、向上しませうか。これで職業婦人保護の設備が、いつか成

ことにあなたの目を留めて下さい。
急所——といふあなたの生活の一點を通して結びついてゐる、廣い〳〵社會の今日の實相をみつめて下さい。

家庭婦人の聲　一人々々にしてみれば、まことにかぼそく、力弱いものですけれど、それが千と寄り、萬と集つて社會的に動いて來たら、實際、政治をも、法律をも、教育制度をも、社會施設一般に亘つても、易々と婦人の力で、立派に動かしてゆけます。母の聲、主婦の叫び。これにもまして、有力に世を動かし人を打つものが他に何かありませうか。

婦人消費組合協會に、全ての婦人を誘ひ合ひませう。あまりに永い間、婦人の要求に耳を被ひ、婦人の利害をうちすてゝ顧みなかつた社會に對して、婦人側が協力一致して巨彈を發する、それがわが婦人消費組合協會の使命であります。

事務所の留守師團長を兼ねて、會計部長の大旗をふり廻してゐた、鈴木千代子さんがちよつと歸國する事になつた。だから、名古屋豐橋邊との聯絡は、今後一層うまくゆくことゝ思ふのですが、とにかくもう少し職業婦人社としての手足を動かして、各地のみなさんと聯絡をとつて、消息し合ひ、勵まし合ひ、協力してゆきたいと思ひます。

おひ〳〵支部組織に、入らうではありませんか。都合のつく限りこちらからも出かけてゆきますから、どうぞみなさん、支部の責任者となつて加勢して下さい。一ケ月に一回位本部から誰かゆくことにして、懇談會、茶話會でも開くやうに計畫を進めたいものです。

私は、おひ〳〵と私の仕事を整理して秩序だてゝ都合のつく限り、各地のみなさんにお目にかゝるために行脚したいと、希望してゐます。東京市內外はいふに及ばず、各地のみなさんのお助力を願ひあげます。(むめお)

職業婦人協會　といふ新しい團體が生れやうとしてゐます。地味に、健實に職業婦人相互の親睦を圖り、職業婦人の地位改善のために協力する會です。職業婦人協會主催の茶話會にどうぞお集り下さい！

るでせうか。

みなさん、求めよ、さらば與へられんですみんなで一緒に、私たちの職業的地位を擁護いたしませう。

主催　**職業婦人協會**

◇誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢
半年分　壹圓四十錢（郵稅一錢）
壹年分　貳圓八十錢

送金法

送金は振替が一番便利です。
誌代の受取證は別に出しません。
雜誌發送を以てこれに代へます。

昭和三年六月五日納本
昭和三年六月八日發行

東京市外中野町四三二四四
發行編輯兼印刷者　奧梅尾
東京市神田區淡路町二ノ三
印刷所　協營社
東京牛込區市ケ谷本村町四
發行所　職業婦人社
振替東京六四一六〇番

中西伊之助著（最新刊）

創作 熱風

暴動か非協同運動か虐げられた印度民族の叫びを聴け

マハトマガンディイ！ 彼は**レニン**よりも深刻、**ムツソリニ**よりも崇高である！ 彼は全三億の同胞のため、暴虐イギリス帝國に叛逆して遂にその一命を犧牲にした。今や彼の炬火の如き魂は全印度に漲り、晝は雲の峰となり夜は火の柱となる。彼の若き一使徒は巨万の財を捨て孔雀の如き戀人を捨てて街に田園に非協同運動のために戰ひ、遂に暴虐なるイギリス官憲の銃劍の下に殪る。吁、**ガンディズム**は遂に全印度民族を救ふに足らざるか？

綺羅と寶石を擲つて戰ふ乙女、長槍を執つて起つ農夫、野に森に砲火轟き、絞首臺に流血迸る。しかもその半面、千尺の地下室に於て情痴に狂ふ野獸の如き人々の群、凄慘にして雄大、深刻にして神嚴、實に本書に依つて作者の烈々たる民族解放の胸熖に讀者は頰を灼かれむ。綠蔭の下に本書をひもとけば、熱風薫る新しき印度は彷彿として眼前に迫らむ。

四六判八〇二頁
定價二圓三〇錢
送料（書留）二七錢

東京麴町下六番町
平凡社
振替東京二九三六九

早稻田大學

文學講義

▲毎月一回八日發行
▲一ヶ月半終了
▲各册菊版四百頁
▲學費月一圓卄錢

內容見本
申込次第
無代送呈

第四十四回新學年開始

單に文藝を味はふにしても、それが現代の生活に徹した眞の味はひ方をするには、相當な努力と研究が必要である。況んやそれを批評し、創作し、若しくは研究する專門家たらんどするには、他の學問と同樣、否、それ以上にさへも準備が要る。本講義は、卽ち、さうした眞面目なる一般文藝愛好者に對して、文藝鑑賞上の指針を與へることを目的とすると同時に、更に進んで文藝の批評家・創作家・研究家たらんとする者に對して、缺くべからざる豫備的敎養を與へることを目的とする。かくて創刊以來既に四十有餘年を經過し、時代の進運に應じて改造に改造を加へて今日に至つたが、今回は特に內容悉くを改め、正課目に幾多新講座を增設すると共に、新たに「現代文藝及び思潮講座」なるものを特設し、文壇・論壇の大家に依囑して、その力作を每號掲載することとなつた。されば、眞に文藝を愛好する满天下の男女よ、請ふ、速かに來つて我が門に學ばんことを。

現代文藝及び思潮講座

文藝を通して見たる社會相……西村眞次
現代哲學の主要傾向……金子馬治
現代フランス文學概觀……吉江喬松
近代文學の味とその鑑賞……吉田絃二郎
歐米思想界の印象……桑木嚴翼
江戶時代の作家生活……山口剛
プロレタリヤ文學の理論と實際……靑野季吉
近代詩の鑑賞……西條八十
創作の實際……菊池寬
大衆文藝の將來……木村毅
現代英文學の傾向……宮島新三郎
現代經濟の歷史哲學的考察……杉森孝次郎

東京牛込 早稻田大學出版部發行 電話牛込 三三三五 四四七七 五六八九 番

大正十三年十一月二十二日第三種郵便物認可
昭和三年六月五日印刷納本
昭和三年六月八日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動
第六巻
第五號
（定價二十五錢）



復刻版　婦人運動　第2回配本（第6巻～第10巻）

1990年9月25日　発行

本体揃価格　50,000円

発行者　船橋　治

発行所　不二出版㈱

東京都文京区向丘1-2-12

〒113　☎03（812）4433

印刷所　三進社

製本所　吉田製本工房

中性紙使用

乱丁・落丁はお取り替えいたします